



西尾維新
NISIOISIN

「『めだかボックス』を読んで僕も
マイナス十三組に入りました!」という
読者様が現れるまで頑張ります!」
「ノーコメント」

JUMP COMICS



めだか

めだかボックス 8



原作 NISIOISIN 漫画 AKATSUKI AKIRA

西尾維新 × 暁月あきら

見せつけよう。
最低の人格を。

ジャンプ
空前の
怒濤展開!!
第8巻!!

原作 西尾維新
漫画 暁月あきら
集英社



ISBN978-4-08-870166-0

C9979 ¥400E

定価 本体400円+税



ジャンプ・コミックス

雑誌 43093-66

球 磨川率いるマイナス十三組の目的が判明し、先手を打つ生徒会。助っ人として名前の拳がった前生徒会長・日之影空洞のもとを訪ねるめだかだが…!? 一方、本格的に動き出した過負荷たちは次なる行動に!!



JC
1~7巻
大絶賛
発売中!!
定価(各巻)420円(税込)

「普通」「特別」「異常」
そして「過負荷」の
異能学園
バトル!!



あまりに酷い生活態度を
改めるべく、生まれて初めて
人間ドックに行きました。

結果は「若干太り気味」。

とりあえず大きな異常が
なかったので一安心ですけど、
改めて指摘されると「ほんと
すいません」って感じます。

改めます。



「めだかボックス」⑧
ISBN978-4-08-870166-0

JUMP COMICS

めだかボックス 8

ボックス



8

『好きだぜ』

原作 西尾維新 漫画 暁月あきら

原作 西尾維新
漫画 暁月あきら

集英社



ISBN978-4-08-870166-0

C9979 ¥400E

定価 本体400円＋税



ジャンプ・コミックス

雑誌 43093-66

球 磨川率いるマイナス十三組の目的が判明し、先手を打ちたい生徒会。助っ人として名前の拳がった前生徒会長・日之影空洞のもとを訪ねるめだかだが…!? 一方、本格的に動き出した過負荷たちは次なる行動に!!

MEDAKA-BOX



あまりに酷い生活態度を

改めるべく、生まれて初めて

人間ドックに行きました。

結果は「若干太り気味」。

とりあえず大きな異常が

なかったので一安心ですけど、

改めて指摘されると「ほんと

すいません」って感じですよ。

改めます。



暁月あきら
AKATSUKI AKIRA



西尾維新
NISIOISIN

「『めだかボックス』を読んで僕も
マイナス十三組に入りました!」という
読者様が現れるまで頑張ります!」
「ノーコメント」
そんな感じの八巻です。
できればマイナス十三組には入らないでください。
よろしくお願いします。



●週刊少年ジャンプ・H22年36・37合併号～45号掲載分収録

ボックス

第1回人気投票結果発表

1位	黒神めだか	832票
2位	人吉善吉	554票
3位	宗像形	323票
4位	名瀬天歌 (黒神くじら)	318票
5位	不知火半袖	307票
6位	黒神真黒	297票
7位	喜界島もがな	296票
8位	雲仙冥利	271票
9位	都城王土	205票
10位	球磨川禊	185票
11位	鍋島猫美	184票
12位	古賀いたみ	165票
13位	平戸ロイヤル	140票
14位	行橋未造	139票
15位	雲仙冥加	115票
16位	湯前音眼	110票
17位	有明	90票
18位	阿久根高貴	87票
19位	諫早	81票
20位	西尾維新	46票

破壊臣…

阿久根先輩…

プリンス…

めだか

めだかボックス 8



原作 西尾維新
漫画 暁月あきら

集英社

8

「好きだぜ」

誰だよ!?

ぽん…



原作 西尾維新
漫画 暁月あきら



ジャンプ・コミックス

集英社

★この作品はフィクションです。実在の人物・
団体・事件などには、いっさい関係ありません。

JUMP COMICS



めだか

ボツ

8

『好きだぜ』

原作

西尾維新

漫画

暁月あきら



人物紹介

めだかボックス じんぶつしょうかい



くろ かみ
黒神めだか

しょうぞく ねん ぐみ
所属:一年十三組

けつえきがた エービーがた
血液型:AB型

せいと かいちやう
生徒会長

ひと よし ぜん きち
人吉善吉

しょうぞく ねん ぐみ
所属:一年一組

けつえきがた エービーがた
血液型:AB型

しょうむ
庶務



あ く ね こう き
阿久根高貴

しょうぞく ねん ぐみ
所属:二年十一組

けつえきがた エービーがた
血液型:AB型

しよき
書記



き かいじま
喜界島もがな

しょうぞく ねん ぐみ
所属:一年十一組

けつえきがた エービーがた
血液型:AB型

かい
会計

しら ぬい はん ぞで
不知火半袖

しょうぞく ねん ぐみ
所属:一年一組

けつえきがた エービーがた
血液型:AB型





人吉瞳

所属：一年一組 血液型：AB型



古賀いたみ

所属：二年十三組 血液型：AB型



名瀬天歌(黒神くじら)

所属：二年十三組 血液型：AB型



雲仙冥利

所属：二年十三組 血液型：AB型



鍋島猫美

所属：三年十一組 血液型：AB型



江迎怒江

所属：一年マイナス十三組 血液型：AB型



球磨川禊

所属：三年マイナス十三組 血液型：AB型



黒神真黒

所属：旧校舎管理人 血液型：AB型

STORY

ストーリー

黒神めだか率いる箱庭学園生徒会。善吉、阿久根、喜界島が加入し、現在は四人で活動中である。学園生徒を危険に晒す「プラスコ計画」を撃破した生徒会一同。だが完全なる人間の製作を目論む理事長は、次なる秘策である「マイナス十三組の設立」に着手する。その異常選抜の一人目として転校してきた球磨川禊。エリート皆殺しを掲げる球磨川の下、学園には続々と過負荷たちが集結し…!?

一方、球磨川に対抗する手段として前生徒会長・日の影空洞に助力を求めるめだかだが…!?

MEDAKA

CONTENTS

8

第62箱	「英雄じゃないんだぜ」	7
第63箱	「マイナス十三組のモットーだよ」	27
第64箱	「やってみるか」	47
第65箱	「箱庭学園の生徒会長は」	67
第66箱	「だったらどうだって言うのさ」	91
第67箱	「生徒会は私達だ」	111
第68箱	「受け入れることだよ」	131
第69箱	「強くなったね」	155
第70箱	「好きだぜ」	175



BOX

くまがわを
はじ
球磨川親を始めとする
箱庭学園マイナス十三組

かれ
彼らが本格的に
かつどう
活動を開始する前に
せんて
先手を打ちたい
せいとかいこうが
生徒会執行部は

せんたい
先代の生徒会長
ののかげ
日之影空洞を
なす
訪ねることにした

——のは
いいんだけどよ

くろかみ
黒神

なんで訪問メン
バーが
おれ
俺とお前の二人きり
なのよ？

はこ
だい
第62箱

えいゆう
「英雄じゃないんだぜ」

………
ひのかげ
日之影三年生——
もと

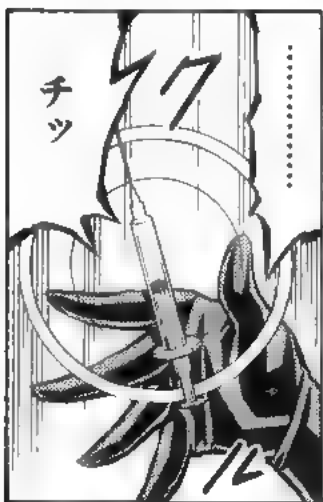
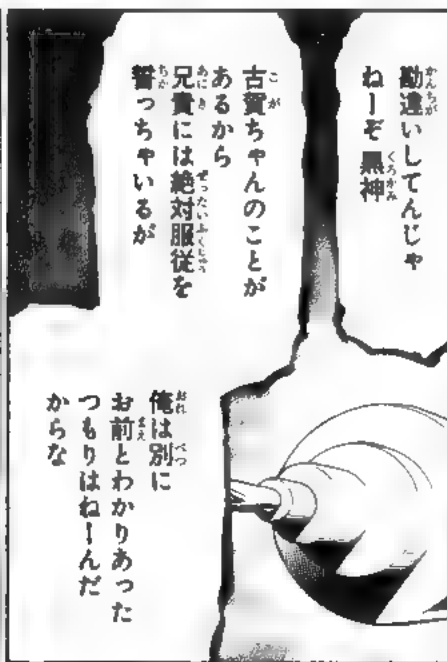
ひのかげ
日之影前会長は
シャイな方でしてね

おねにんずう
大人数では
まず会って
くれないのですよ
お姉さま

……い
めだかちゃん

おれ
俺が聞きたいのは
そーゆーことじゃ
なくってよ——

スッ



やっぱ
わけわかんねーよ
お前!

ほんとう
本当に
お前
俺の妹なのか?

ちつとも
実感
わかんねーぜ!

.....
わかりあった
つもりなど

わたし
私にもまったく
ありませんよ
お姉さま

.....
あん?

あなたと私の間に横たわる
六年間の溝が
そう簡単に埋まるとは
思っておりませんし

また思われても
困ります

あなたと
あなたで仲直りするほど
つまらないことは
ないでしょう

あなたとの
和解は

劇的で
あるべきだ

お姉さまに同行して
いただいたのは
単にあなたなら
日の影前会長と
波長が合いそうだから
というだけのことです

あの「知られざる英雄」を
見つける確率は
少しでも上げて
おきたかったので

.....



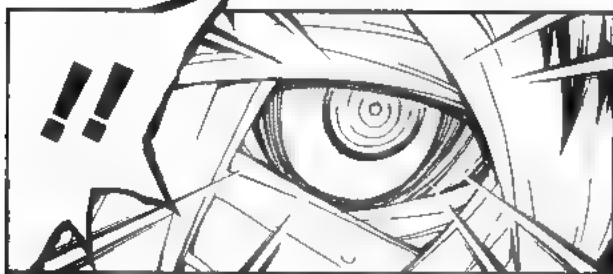
…うん

まあ
無人だな



そもそも十三組生には
登校義務からして
ねーんだしょー

やつばこんな時間だし
もう下校してんじや
ねえの？

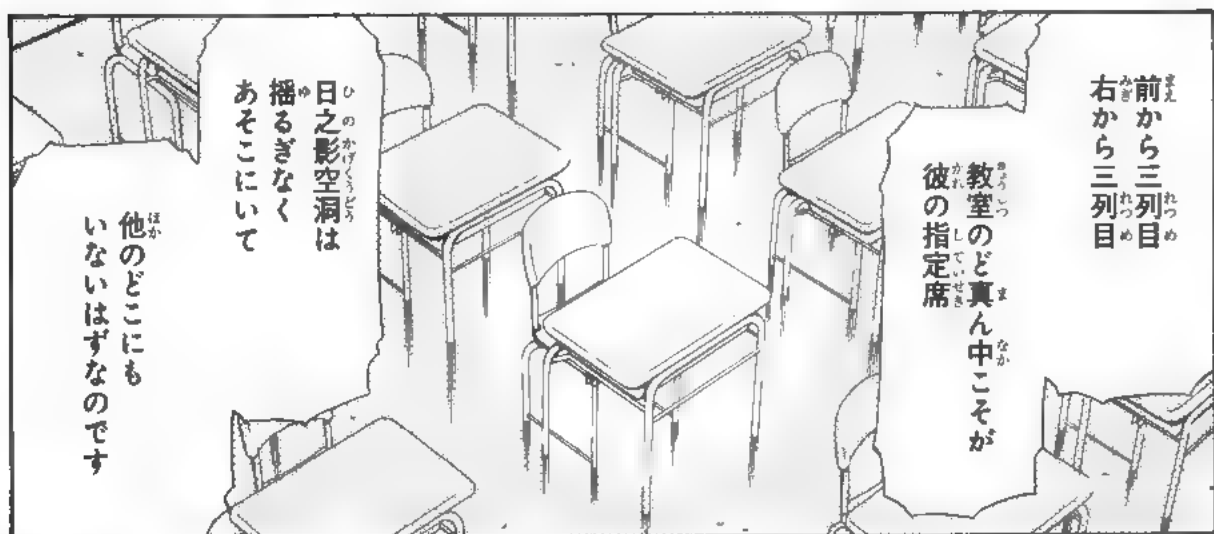




話しかけないで
いただけますか
お姉さま

先ほども
申し上げ
ましたが

日の影前会長を
みつけることは
私にとっても
容易ではないのです



前から三列目
右から三列目

教室のど真ん中こそが
彼の指定席

日の影空洞は
揺るぎなく
あそこにいて

他のどこにも
いないはずなのです



だからお姉さまも
あの席を
注視してください

あなたなら

私より先に
彼を見つけれられるかも
しれません

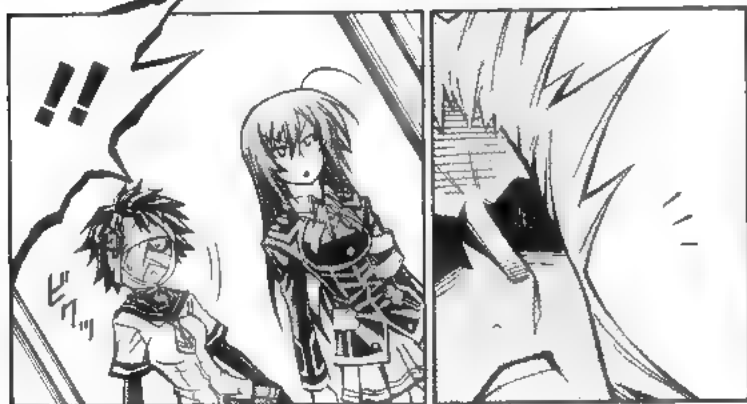
.....

はあ

あの辺の席

ねえ——





おー！
なんだなんだ
黒神じゃねーか！

びっくりするなー
おい
この野郎！

気さくだ…

ふっ

さすが
お姉さま

その場の
誰かひとりに
見えたら
もう全員に
見えるのです

覆面で常に
顔を隠している
シャイなお姉さま
なら

前会長とシャイ同士で
通じるところがあるという
私の読みはズバリ
的中しました

お前そんな
あつさい読みで
俺を連れてきた
のか！

つーか
こいつのどこが
シャイなんだよ！
すげーいい笑顔だぞ！

どうも
日の影前会長

スッ

このような
突然の訪問
申し訳ありません

そんな
かしこまんなよー
黒神

ご活躍のほどは
聞いてるぜー

評判いいじゃん
例の目安箱！
いや
めだかボックスだっけ？

いえいえ
お恥ずかしい
限りです

あなたみたいな
生徒会長を
目指したはずが

なかなか
思うようには
いきません

お前が俺みたいに
なる必要なんか
ねーんだよ

お前は
お前みたいに
なればいい

名瀬も
そう思わねー？

思うだろ？

なんで
俺の名前……

これでも
先代生徒会長
だぜ

全校生徒の
名前くらいは
憶えてる

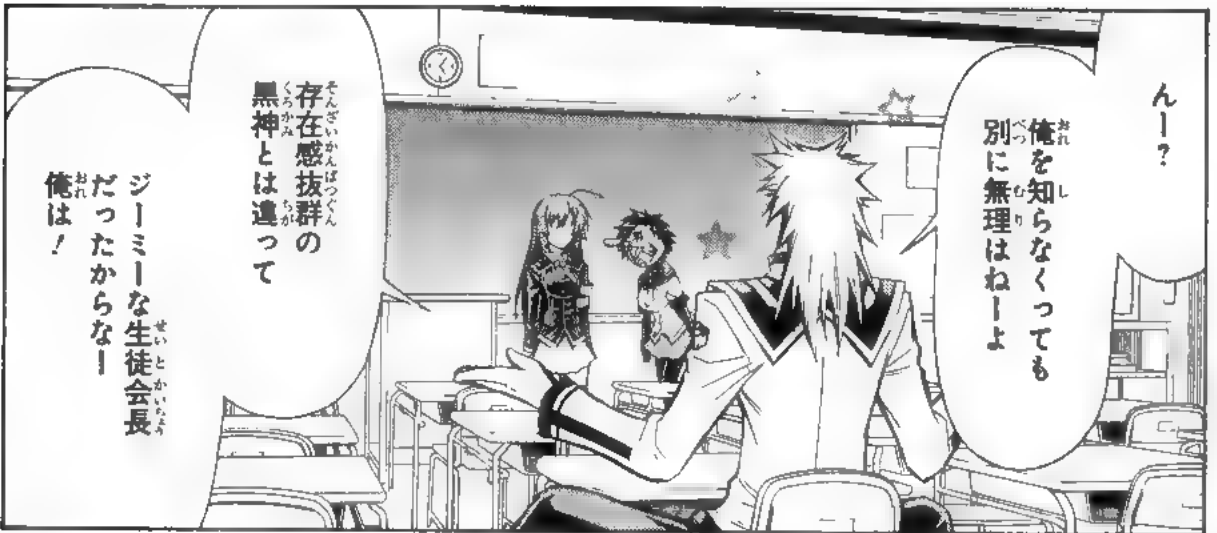


……

まあ確かに
去年の俺は
特別体育科に
所属していたこともあって
有名人だったからな
名前を知られてること
くらいは驚くにや値しねーが
しかし



問題はおれ
俺の方が
この先代の生徒会長を
まったく知らねえって
ことなんだよな――



んー？

俺を知らなくっても
別に無理はねーよ

存在感抜群の
黒神とは違って

ジーミーな生徒会長
だったからな！
俺は！



謙遜をなさる

私は
あなたを見て

生徒会長になろうと
思ったというのに



「見て」

ねえ

まあ確かに

在任中に俺を見つけたのは
黒神――
役員を含めても
お前だけだったな

だからこそ
俺は

後任にお前を
推したわけだが

しかし
思い出話をしにきた
わけでもねーだろ

隠居して
受験勉強三昧の
この俺に

何の用だよ
現生徒会長

はい

そう言っていたけると
話が早くて助かります

だい
第九十七代生徒会長
ひのかげくうどう
日之影空洞

ミスターアンノウン
『知られざる英雄』

せいとかい
生徒会を
しつこう
執行するため

どうか私に
ちから
力を貸して
いただきたい





『えー』

『それでは
これより』

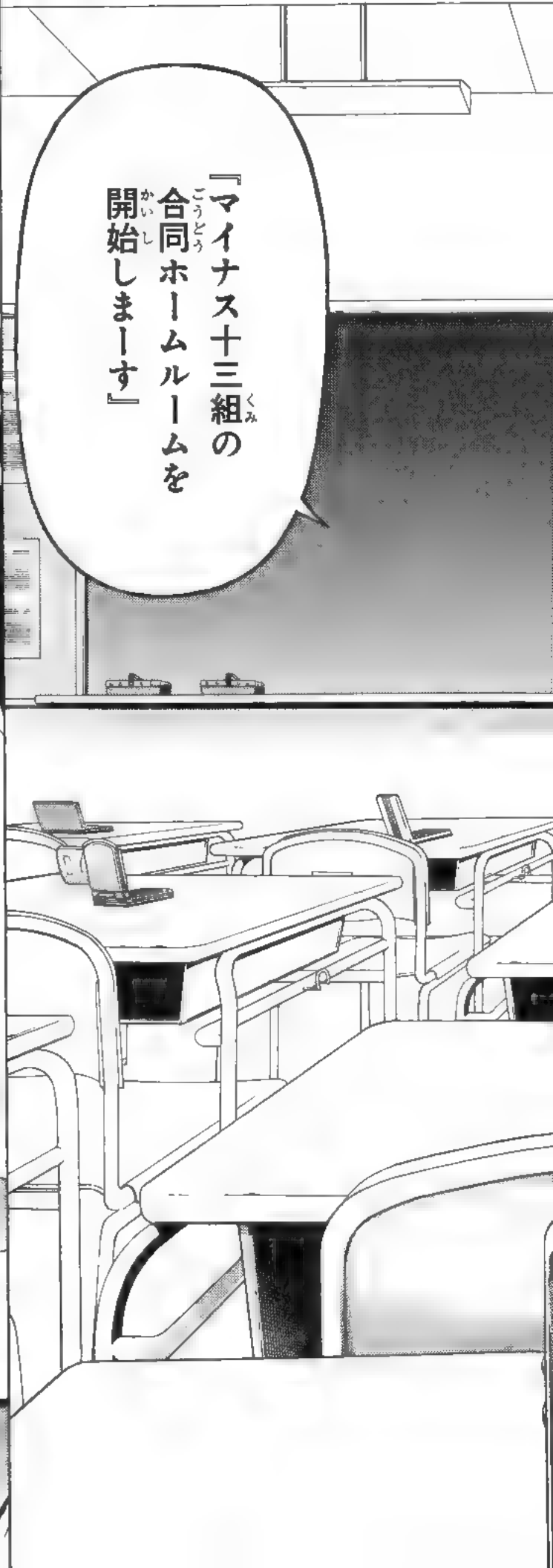
13
13
13
13

Bold

『マイナス十三組の
合同ホームルームを
開始しまーす』

『議長は
暫定的に
この僕』

『球磨川禊が
務めますね!』



すみません
球磨川さん

私が旧校舎の奪取に
失敗したばかりに

江迎怒江



新しい教室を
用意できなくて

「だから
気にしないで
いいんだって
怒江ちゃん」

「マイナス十三組
全員が揃うまでは
この二年十三組で十分
事足りそうだしね」



「十三組生のほとんどが
登校していないというのは
後々のことを思うと
大変そうだけど」

「こうしてたまり場を作る分
には都合がよかったな」

「ナイスアイデア
だったよ」

「不知火ちゃん」

……いやあ

思いついたこと
言っただけですよ
あたしは

あひやひや！

不知火半袖



「……で」
「現在登校している
十三組生は
二人でことごと
間違いないのかい？」

えーそうです
その通り

雲仙先輩が
入院中の今

「前生徒会長」

「ねえ」

授業に出ているのは
現生徒会長の黒神めだかと
前生徒会長の日之影空洞
だけです

はい——
まあご安心ください
心配しなくとも

その二人が
手を組む可能性は
皆無ですから☆

不知火半袖





断る。
ことわ



黒神イ

お前
なんか誤解してんじや
ねえのか？

生徒会長は
生徒の代表ってだけで
別に英雄じゃないんだぜ？

球磨川？
マイナス
過負荷？

なんで生徒会が
そんな奴の相手しなきゃ
なんねーんだよ

どう考えても
業務外だろ



危ない奴がいるなら
警察を呼べばいいし
怖い奴がいるなら
自衛隊を呼べばいい

つかまず
先生方に相談しろよ

なんでもかんでも
自分の力で解決しようってのは
傲慢でしかねーぞ？

まあそんなに
目立ちてーなら
好きにすれば？

今の生徒会長は
お前なんだから



しかし思いのほか
つまんねー男だったな

気さくそうに
お前を迎えておきながら
てめーに火の粉が
降りかかりそうになると
手のひら返してとんずらとは

認識云々はともかく
お前やつぱ人を見る目とか
ねーんじゃねーの？

確かに
私の落ち度でした

ひのかげ前会長に
ありのままの現状を
話せば

こうなることくらい
わかりそうなもの
だったのに

あ？

どういう
ことだよ？

だから
ですから

あなたと
通じるところが
あるんですよ
あの人は

シャイで

照れ屋で

ひねくれ者で

嘘つきで

似合いも
しないのに
悪ぶって――

なんでも
ひとりで
背負い込む。



「え」



もとえいゆう
元英雄。



『えーと』

『誰?』

カラ

カラ



ねー!
あたしの言った通りでしょ
球磨川先輩

・た・り・て・手・を・組・む・こ・と
・な・ん・て・な・い・つ・て

なにせその人
一人で軍隊と
戦えるんですから

あひやひや☆

球磨川渡



携帶電話を
全機種持ノ男。

箱庭学園 第98代生徒会長
黒神めだかは
言うまでもなく絢爛豪華

生徒会選挙
目安箱の設置
風紀委員会との抗争
地下研究所の視察を経て

しかしその先代

第97代生徒会長が
誰なのかという
話になれば

その質問に答えられる
生徒は皆無と言っている

今や彼女は
広大な学園に知らぬ生徒が
一人もいないほどの有名人である

それは「彼」が
黒神めだかに比べて
非常に地味で

存在感のない
生徒会長だったから

ではない

むしろ
まったくの
逆で

「彼」
日之影空洞は
誰もがその存在から
目を逸らさずには
いられないほど



巨大で

強大で

大々的な
生徒会長だった



「う」

「わぁおっ」

「猛烈ウー」



今からお前を
五十回殴るからよー

五十回
歯を喰い縛りなー

あせーの
拳破拳破ー

ゲッ

ゲッ
ゲッ
ゲッ



はこ
だい
第63箱

くみ
「マイナス十三組の
モットーだよ」

拳々破アツ!!
けんけんば





おおーっと

本気で
手加減したつもり
だったんだが

たったの八撃で壊れるとは
黒板って奴は
相変わらず脆いぜえ



マイナス十三組
球磨川禊！



もちろん
お前は黒板より
頑丈なんだろう？

期待してるぜ



ひのかげくどう
日之影空洞が
どういふ生徒会長
だったかを
紹介するなら

とにかく
腕っ節がすこぶる立つ
トップだったということに
尽きます

フラスコ計画的に
言うなら
その恐るべき強度こそが
彼の異常性

近接戦闘に限れば

私どころか
高千穂三年生や
古賀二年生でさえ

彼の足元にも
及ばないでしょうね

.....
わっかんねーな

つか
話が違うじゃ
ねーかよ

「人から気付かれない」
「人から記憶されない」

それがあの男の
異常性だったんじゃ
ねーのか？

げん
現に俺達は全員
あの会長のことを
忘れていたし

さつきも目の前にいた
日之影先輩に気付かなかった
わけだし――

それは
どちらかといえば
結果に過ぎません

私の「動物避け」を
極端に
発展させた体質と言え
ばわかりやすいでしょう

誰かが目を逸らし
誰かが忘れたく
なるほどの

ひのかげくどう
日之影空洞の
破壊的な強さの
結果にね

生徒会長として
誰よりもこの学園を愛した
彼ではあります

そのすべてを
覆い隠すほどに――
彼は強大なのです

考えてみれば報われない話ですよ
彼がどれほど
よき生徒会長であつたところで

彼が強過ぎるせいで
一人残らずそれを忘れて
しまうのですから

けれどそれでも
日之影空洞は腐ることなく
箱庭学園の平和を守るために
働き続け戦い続けた
感謝も称賛も見返りも
求めることなく

そして生徒会執行部を
引退した今でもまだ

たったひとり
誰にも知られず
戦おうとしている

いみじくも
彼の言う通り
ですよ

生徒会長が
英雄なのでは
ありません

ひのかげくどう
日之影空洞が
英雄なのです

.....
ハン
なーんかい奴そうで
ムカつくだけだなー
俺的には！

けどそれならそれで
いいんじゃないの？

つまりその
お強い英雄サマに
任せておきやー
球磨川先輩を
やつつけてくれるって
見込みなんだろう？

……そんな簡単な
見込みなら
焦りませんよ

否

それで済むなら
わざわざここまで
来やしません

強いくらいで
球磨川を
止められるなら

私が中学で
とつくにケリを
つけていた――

おいおい
どうした
転校生

いつまで
そうしている
つもりだ？

気絶した振りで
この場を乗り切ろうと
してるんなら
大失敗だぞ

お前がこれまで
何をしてきたかは
黒神から聞いている

お前がこれから
何をするつもりなのかも
黒神から聞いている

どちらも気絶したまま
ボコられる理由としては
十分過ぎるぜ

まあ泣いて
謝るっていうなら
考えなくも――



「僕はこんな風に
僕を叱ってくれる人を
ずっと待っていたんだ」

「僕の間違いを
命懸けで正してくれる人を
心から待っていたんだ」

「本当に
なんて嬉しいんだろう
「お陰で目が覚めた！」
「これで改心したぞ」

「ありがとう！」
「きみには本当に
感謝するよ」

「だから
この痛みの
恨みは」

「日の影くんに
迷惑をかけない
ように」

「きみとは何の関係もない
その辺の誰かに何かして
晴らすとするね」

「おいおい
黒神」

「ここまでとは
聞いてなかったぜ
さすがにも」

……無理だ
な
球磨川

お前は俺に殴られた
恨みを憶えておくことが
できない

俺の異常性は
『知られざる英雄』

誰も俺を
目視することは
できず

誰も俺を
記憶することは
できない！

「うん」
「どうやら
みたいだな」

「正直に言えば
もう既に忘れかけてる
くらいだよ」

「そうだね」

「近い」

「すべてをなかつた
ことにする」
という点において

「きみの異常性と僕の過負荷は
ちよつぴり近いよ」

殴りつけた傷や
破れた制服が
いつの間にか
戻っているだと

!?

『ただし僕の
オールフイクション
「大嘘憑き」は』

『異常と違って
取り返しが
つかない—』



なんだ？
この場の全てが
螺子曲がつていくような
この感覚—！

これは確かに
異常どころじゃねえ！

まずい！
何をされるかわからないが
何かをされる！！

う

おおっ





…転校二日目に
いきなり本気を出すとか
勘弁してください
球磨川先輩

あなた世界を
滅ぼすつもりですか—

いやそのつもり
なんでしょうけれど

蝶ヶ崎 蛾々丸

所属:二年マイナス十三組

血液型:A・B型

過負荷:『不慮の事故』

肉弾バトルは全部
あたしにくれる
約束だろうが

あっさり忘れてんじや
ねーよ大將

クロスソ?

志布志 飛沫

所属:一年マイナス十三組

血液型:A・B型

過負荷:『致死武器』

前生徒会長——
日之影空洞先輩ですね

善良な転校生を偏見を持って
一方的に殴打するとは
どういう見ですか？

英雄だかなんだか
知りませんが——
これは問題に
なりますよ

…ふん

マイナス十三組が
常識っぽいことを
言うじゃねーか

だがそいつは昨日
雲仙風紀委員長を含む
本校の生徒を多数
病院送りになっている

「善良な転校生」とは
とてもじゃないが
言えないな

…ほう

失礼それは
知りませんでした
申し訳ない

まさか
そんな事件が
あったとは

まあでも
風紀委員長とか
そういう偉そうな
連中は

誰に何されても
しょうがないんじや
ないですか？

……………

「こらこら
蛾々丸ちゃん」

ぐぐ

「先輩にそんな失礼な
口を利いちやいけないよ」

「でも庇ってくれて
ありがとう
二人とも」

「それに
腕を折ってくれて
ありがとう」

「危うくすべてを
おじやんにしちやう
とこだったよ！」

……
文字通りに……
って感じたな

「そして最後に
もうひとつありがとう」
「助けに来てくれて
ありがとう」

「いいように
殴られまくって」
「リーダーなのに
格好悪いところ
見せちゃったね」

ケツノくだらねー
殴られることを
格好悪いと思うような奴が
マイナス十三組にいるわけ
ねーだろ

あたしら基本
負けっぱなしの
寄せ集めなんだから
よー

……確かに
助けが来るとは
意外だったぜ

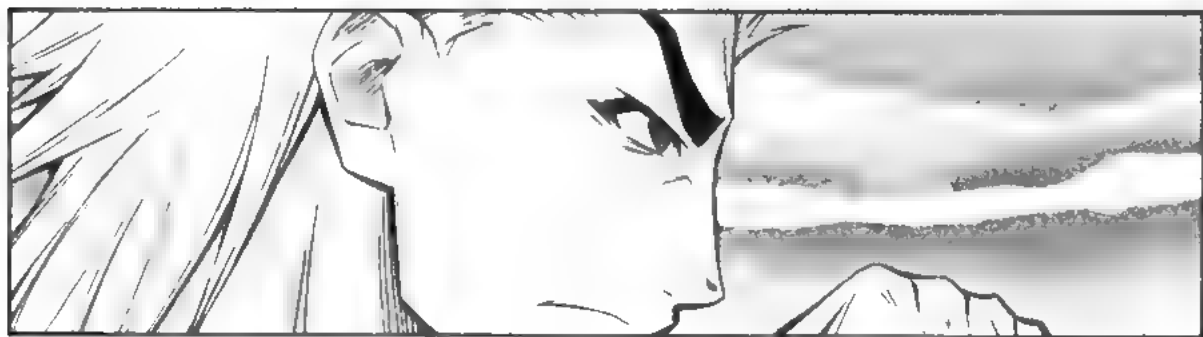
過負荷にも
チームワークとか
あったのかよ

「当然
あるとも」

「なんたって僕達は
週刊少年ジャンプの
愛読者なんだぞ！」

『ぬるい友情・
無駄な努力・
むなしい勝利』

『それが僕達
マイナス十三組の
モットーだよ』





おい黒神イ
気持ちは
わかつけどよー

いつまで
ここでこうしている
つもりだよ

下校時間は
とっくに過ぎた
ぜ？



ここを離れたら
私達も日之影前会長を
忘れてしまいます

彼に助けを求めたことは
おろか
彼が今たった一人で
戦っていることまで

ならばいつまででも
ここにいますしか
ないでしょう



無事に戻ってきて
くれればそれでよし

そうで
なくとも

せめて
ここに逃げてきて
くれたなら――



冷静ぶりながら
血が滲むほど拳を
握りしめるとが
なるほど
こいつのこゝろが
嫌いなんだな俺は



おいおい黒神！
あまり先代を
馬鹿にするもんじゃ
ねーぞ

誰が逃げて
くるだつて？



よかった！

ごつ…
ぶし
ご無事でしたか！

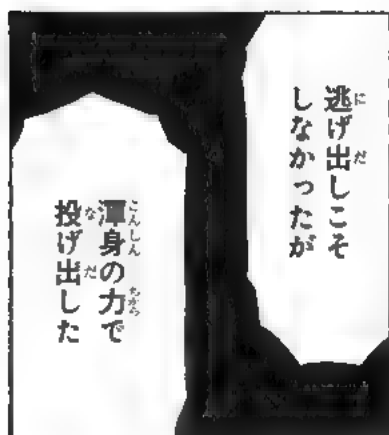


ひ…

ひのかげ
日之影
ぜんかいちよう
前会長…!!



…本っ当に
きづ
氣付けねーな
いつ戻ってきたんだよ
怪我やは…
けが
とりあえずない
みたいだがーしかし



こんしん
潭身の力で
なげだ
投げ出した

にだ
逃げ出しこそ
しなかったが



ふじ
無事

とは
言えねーなあ

しんちき
正直
傷ついてる

ひのかげくうどう
この日之影空洞
うまれ
生まれて初めて
せんちゅう
戦いを途中で
なげだ
投げ出した



せんたう
戦うという形でさえ
れんちゅう
うという形でさえ
連中には
かわりたくないと思つた

たいたい
敵対したくもないくらい
きんご
気分の悪い人間がいるなんて
そうそう
想像もしなかったぜ

なんにん
しかも何人も
いるなんて！



黒神

お前は
平気なのかよ

あんな過負荷と
向き合って
お前は正気を保って
いられるのか

.....
見栄を張るつもりは
ありませんよ

ひとりでは
とても無理でしょう

私は英雄では
ありません

ひとりで
戦うことなど
できません



だけど
みんながいるから

わたし
私は英雄より
強くなれる

強いだけじゃ
駄目なことも
わかってんだろ？

黒神

そのみんなとやらに
俺を会わせろ

そい・つら次第
だが

今回に限り
俺は裏方に
徹してやらんでも
ない

!!

打撃系最強・高千穂仩種



闘争好きだよ

閃光技最強・阿久根高貴



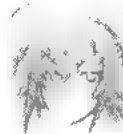
敵役居た
今も昔

水中戦最強・喜界島もがな



でも水中戦の割合なんて
いっないよ

空中戦最強・甲、仲め、か



善さね
うんうんおはだけ

地上戦最強・古賀いづみ



本人的には
空中戦のほうがいいぜー！

近接戦最強・日又影三郎



敵いはチライだねな

遠距離戦最強・なつみつな



そのうち出るかも



!?

もう
来てる。

だい
第64箱

「やうでみるか」

これが「知られざる英雄」!

そっいえば
元クラスメイト

僕の解析でも
認識できないなんて…

日の影前生徒会長!!

思い出したっ…

っていつかいのから!?

巨っ大——
巨体っ!!



断言するぜ
くろかみ
黒神

このメンバーで
マイナス十三組に挑むのは
格安自殺ツアーを
組むようなもんだ



「じゃー
思わね邪魔が
入っちゃったけど
切り替えて！」

「ホームルームを
続けようか」

「ここから先は
幹部会と
いうことでね！」

式ノ13
参ノ13
参ノ13
参ノ13

邪魔——ですか
そうですね

バリ

理事長も仰つていた通り
やはり生徒会執行部は
私達の邪魔をする
ようですね

まあ
当たり前といえば
当たり前ですけど

生徒会が邪魔なら
すり潰しちゃえば
いいじゃねーか

ポキ

向こうから先に
殴ってきたことだし
口実はあるだろ

あたしにやらせろよ！
マイナス五秒であいつらを
地面と区別つかなくしてやる

ポキ

「こらこら
飛沫ちゃん」

「そんな乱暴な
ことを言っちゃあ
いけないよ」

「暴力を振るわれたから
暴力で返すなんて」

「そんなことをしたら
僕達は連中と
同類じゃないか！」

『ちゃんと話し合っ
てわかってもらおう？』

べろ

べろ

『僕達のエリート抹殺計画が
どれほど素晴らしいのかを！』

…わかりました

そうしましょう

私も
名の知れた
過負荷として

人後に落ちない
劣等感に相当に
あつたんですけれどね

この人の過負荷は
文字通り桁が違う

あたしこそは最低だと
自負していた昨日までが
恥ずかしい

あんたが
大将だ
球磨川さん

判断には従うよ
いいようにしな

自分より下種な人間が
そばにいてくれる
という事実ほど
やすらぐことはない――

「ん何？」

「僕そんな
いいこと
言った？」

この人についていこうと
心から思える!!

「それで
さっきの話の
続きだけど」

「とにかく僕達が今
困ってるのは」

「当面抹殺したい
十三組の生徒が
ほとんど登校してきて
いないってことだった
よね」

「駄目だよー
登校義務がなくても
学校にはちゃんと
来ないとき」

「学校はとても
楽しいところ
なんだから！」



「……
お悩みの
ようですね」

「……
よかったら
いい手がありますよ
球磨川先輩」

「あ」

「来てくれたんだ」

きゅぽーん

『しらぬい
不知火ちゃん』



あーん



ちよつ…

いきなり
何をしてるんですか
志布志さん！

え？

いやほらなんか
後から来たくせに
偉そうでムカついたから…

ごめんなさい
もう二度としません
許してください

あのねえ
志布志さん

気持ち
は
わかりますが

同感です。

偉
そう
な
奴
つ
て
の
は

誰に
何
さ
れ
て
も
し
よ
う
が
な
い
で
す
よ
ね
え



「おいおい二人とも
その辺にしておきなよ」

「不知火ちゃんの
食事の邪魔に
なっちゃうじゃないか」

もっしゅ

もっしゅ



こんな
理事長のコネで
マイナス十三組に
入ったような奴が？

あたしの隙りを
避けていた？



球磨川先輩が
「大嘘憑き」で
助けてやっただけですね

…いえ
まさかでしょう





いや
ひのかげせんばい
日之影先輩

不合格って！
いきなりそんなことを
言われても
納得できません！

そうですよ！
おれたち
俺達は伊達に
めだかさんのそばに
いるわけじゃない！

マイナスあいて
過負荷相手だろうと
十分に戦える自信は
あります!!



…ハン

確かにその見識！
フラスコ計画統括と
しちやあ
傾けなくもねーな

「十三組の十三人」の中に
「裏の六人」ってのが
いたんだけどよー

まあ今から思えば
マイナス十三組の
叩き台みてーな
連中だったんだが

「プラス」って
ネーミングも
なんかあざといわ

連中はその異常性も
異常だったが

何よりも
その心のありようが
異常だった

強いとか
弱いとか

そういう問題じゃなく
なんかこー
か・か・わ・り・た・く・も・ねー
感・じ・つ・つー・か・よー

そういうことだー
漫画じみた能力なんて
問題としては
実は二の次で

大抵の人間は
過負荷と向かい合った
だけで心が折れる

だが
人吉阿久根

お前達は球磨川禊を
知ってしまっているが
ゆえだろう

既に心が
折れかかっている
不合格なんだー

ああちなみに
その「六人」を知ってて
耐性があるからだろうな

名瀬 お前も
ぎりぎり合格って
ところだよ

☆



仲間の腕を
平気でへし折って

へし折られた側が
お礼を言う

そんな奴らと
向き合えたところで
何の誇りにも
ならないんだから



まあ
そうなのよね

過負荷を相手取るに
あたって
一番最初に越えなきゃ
ならないのは

連中とは

戦いたくもないという
心の壁なのよね

日之影くんは
合格と言ったものの

実際には
真無くんや名瀬さん
古賀さんでも
複数人相手取るのは
キツイでしょ

あたしも
ヤダ

そして
あえて誰も言及して
いないけれど

そういう意味では
この中で一番不合格なのは
他でもない生徒会長
めだかちゃんだわ



「完成」のことが
なかったとしても
相手のことを
誰よりもわがうとする
この娘は

過負荷を相手取るのに
誰よりも
むいてな



凶化合宿

やってみるか？
お前達

!?

馬鹿な…
日之影くん！

あれはまだ
この子達には
早過ぎる！！

早過ぎるって…
じゃあ
いつならいいんだ
真黒くん

マイナス十三組が
学園を席巻した後か？

凶化合宿…？

聞くからに
おっかない
響きですけど

なんですか
それ？



この箱庭学園が
黒箱塾だった時代から
代々受け継がれてきた
メンタルトレーニングだよ

まあつまり
フラスコ計画の
一環といえ
ば一環なんだが

あまりに過酷過ぎて
不知火理事長が
着任時に廃止したという
いわくつきの鍛錬法だ

……っ！
あの理事長が……

過酷過ぎて
廃止……!?

マイナス十三組を
相手にする方が
楽かもしれんくらい
諸刃の剣だが
それくらいしか
打つ手がない

やるかやらないか
明日までに決めろ

やります

やります

やります

やります



「なるほど」
「確かにいい手だ」

「いや」
「酷い手だ」

「これなら
マイナス十三組が揃うのを
待つまでもなく」

「明日にだって
すべてが台無しだ」



「しかし不知火ちゃん
こんなえげつなさの
極みみたいなこと
よく思い付くね」

「僕正直ちょっと
引いてるよ」

同感です

あなた
地獄から来た
観光客なんじゃ
ないですか？

それに本当に
いいのかよ
ここまでして

お前生徒会に
友達がいるって
言ってたじゃねーか



えー
いますよー

だから
試したいんです

あいつがいつまで
あたしの友達で
いられるのか☆

わっし

わっし

[illegible]

卷末の
喜界島レポートを
一瞥くたさい。

湖へまゐる

フランスコ計画だ
マイナス十三組だ
あるいは
凶化合宿だと
言ったところで

それは
あくまでも
水面下の出来事

生徒会執行部としては
当然通常の業務も
執行しなければならない



あれから
一夜明けて
七月十七日

今日は
箱庭学園一学期の
終業式である

ガヤ

はこ
第65箱

はこにわがくえん
「箱庭学園の生徒会長は」

ガヤ

明日から
夏休みということで
先は思いやられるものの

俺達の気も
少しだけ纏んでいた

しかし
水面下での出来事は

この日
唐突に表面化する

それでは

これより
本年度一学期
終業式を――



ふあひ
開始ふる。





「やっほー」

「箱庭学園の
みな
皆さん」

「はじめ
まして！」

「僕は
まがわみそぎ
球磨川禊！」

「めだかちゃんの
もとかれ
元彼でーっす!!」





……鳥肌の立つような
冗談を抜かすな
球磨川

あや
危うく卒倒
するところだった

このような場で
何の用だ

今壇上に
上がつてよいのは
生徒会役員ただぞ

「……………」

「生徒会役員」

「ねえ」

「いやいや
邪魔する気も
卒倒させる気も
ないんだよ」

「ただ」
「このような場で
めだかちゃんに
話しておきたいことが
あるだけでさ」

……
なんだ
それは？

……
署名？

「そう」
「署名だよ」

「めだかちゃんの
大好きな」

「みんなの
意見って奴だ」

パラ

パラ

「箱庭学園
がっこうそく だい
学校則 第45条
じよう
第三項に基づき」

「生徒会長
せいと かいちよう
くろかみ
黒神めだか」

生徒会長解任請求に
対する同意署名

「きみに
解任請求を
せんげん
宣言する」



……
阿久根先輩

校則第45条第三項って
何ですか…!?

…第45条は
生徒会執行部の
罷免に関する条目だ

第三項はその詳細

「生徒会執行部に
明白な不備が
ある場合」

「全校生徒の
過半数の署名をもって
役員は即日罷免される」!



「おいおい
とぼけるなよ
善吉ちゃん」

「ほら見てごらん」
「誰の目にも
火を見るより
明らかじゃないか」



不備い?
不備ですって!?
そんな馬鹿な!!

俺達に何の不備が
あるってんですか!!

『副会長の
不在』

『これは明白に
生徒会則第2条に
違反している』

……？
生徒会則
第2条ってのは？

言うまでも
あらへん

役員選考に
関する条目や

『生徒会執行部は
会長・副会長・
会計・書記・庶務の
五名よりなり』

『会長は当選後
迅速に他の役職に
相応しき者を選定
しなければならない』

痛いところ
ついてきよるで
あの学ランくん

黒神ちゃんの化物じみた
スキルの高さゆえに
これまで誰も問題に
してこんかったけど

ちゅーか本来
問題にするような
ことやないねんけど

確かに制服改造とかとは
比べもんにならへん
生徒会長としての
業務不履行やー

だ……だが！
そんな揚げ足取り
みたいな理由で
過半数もの署名が
集まるわけがない！！

よこせ！
どうせこんなもの
捏造に決まってー

しよめい
署名している
せいと
生徒が…

全員

No. 5

2年 - 13組
3年 - 13組
3年 - 13組
2年 - 13組
3年 - 13組
2年 - 13組
1年 - 13組
2年 - 13組
1年 - 13組
2年 - 13組
3年 - 13組
3年 - 13組
2年 - 13組
1年 - 13組
1年 - 13組
2年 - 13組
3年 - 13組
3年 - 13組
2年 - 13組
1年 - 13組
1年 - 13組

No. 6

2年 - 13組
1年 - 13組
2年 - 13組
2年 - 13組

No. 7

1年 - 13組
2年 - 13組
2年 - 13組

全員（ぜんいん）
マイナス十三組（マイナスじゅうさんぐみ）
だど!?

「そう」

「二年（ねん）マイナス十三組（くみ）
二年（ねん）マイナス十三組（くみ）
三年（ねん）マイナス十三組（くみ）」

「三・ク・ラ・ス・総員（そういん）の・しよめい・署名（しよめい）だよ」

「三・ク・ラス・総員そごういんの
しよめい・
署名だよ」



馬鹿な…
マイナス十三組はまだ
全員揃っていないはず
なのに—
それに！
たとえ全員揃ったところで
たかが3クラス！
全校生徒の過半数に
達するわけが

たとえ全員揃ったところで
たかが3クラス、
全校生徒の過半数に
達するわけが

名ばかりの署名を
集めて過半数か

随分と大した
「みんな」だな

球磨川

随分と大した
「みんな」だな
球磨川

マイナス十三組が
理事会と繋がってるってこと
忘れてた



その気になれば
生徒会なんていくらでも
水廻しできるのよね

その気になれば
生徒せいとなんていくらでも
水みづでできるのよね





『差別
するなよ』



「おいおい」

「名ばかりだろうと
人数合わせだろうと
この箱庭学園の
誇るべき生徒だぜ」



球磨川

第45条には
他にも補則が
あったはずだな



「ちなみに会長が
解任される際には
役員も諸共だよ」

「学校則第45条
第七項！」

「つまり
高貴ちゃん達も
お役御免ってことだ」

「今までお疲れ様！」
「駄目な会長の下で
よくがんばったね
三人とも！」



「解任請求者は
次期選挙までの間
臨時で生徒会長を
務めなければならない——」

第十三項「解任責任」
「行事運営に支障を
きたさぬよう」

えっ…!?

それって…
つまり……

「そう」

「転校してきたばかりで
本来立候補資格のない
僕でも」

「この方法でなら
生徒会長になれる」

「さあ
めだかちゃん」

「その似合わない
腕章を」

「自分で
外して」

「僕に
渡すんだ」

球磨川…!

貴様という
男は…

どこまで
マイナスなのだ…!!

「そして
きみ達の腕章も
もちろん頂戴」

「無能な先代と
違って」

「僕はもう役員を全員
選定し終えてるからさ」

『僕達が
新生徒会だよ』





なっ…

えっ…？

しらぬい
不知火っ…！？



どうして…！？

…なるほど
不知火がそちら側か
納得いった

転校したてにしては
やけに校則や生徒会則に
詳しいと思ったのだ



そして昨日の
江迎さんと…

後ろにいるのが
瞳さんの書いていた

「球磨川に匹敵しかねない
ふたりの過負荷」…



なるほど！
日之影先輩

（だっだっけ？ 忘れたの
言っことは的を射ていた

こうして

向かい合っているだけで
心が凍えそうだと
マイナス十三組



「あそくだ」
「引退したきみ達の相手なんか
してる場合じゃないや」

「早速だけど
いい機会だから」

「新生徒会長として
マニフェストを
発表しなきゃ！」

「えーと
まずは」

『授業及び
部活動の廃止』



『直立二足歩行の
禁止』



『生徒間における
会話の防止』

『衣着用への
厳罰化』



『手及び食器等を
用いる飲食の取締り』



「**奉仕活動の無理強い**」



「**不純異性交遊の努力義務化**」



「**永久留年制度の試験的導入**」



「**以上八点の実現に向けて一生懸命がんばることをここに誓います!**」

「みなさん応援してください!」

「**なお前生徒会の負の遺産である目安箱は**」

「**当然この僕が引き継ぎますね**」

「**困ったことがあったら遠慮せずになんでも言ってください! 24時間365日**」

「**僕は誰からの相談でも受けつけます!**」





：落ち着け！
派手なマニフェストに
惑わされるな――
気持ち悪さに正気を失うな！

俺は一時期
誰よりもこの男の
そばにいた――

だから球磨川視が
この程度じゃないことを
誰よりも知っている！！

目的というなら
そうハ
確かマイナス十三組の目的は
十三組の討伐だから

めだかさん！

球磨川の狙いは
生徒会則第17条
です！！

生徒総会の
強制召集権か……！！

「そう――生徒会則第17条」
「生徒会長は職務に則り
任意に生徒総会を設け
全校生徒を一同に集められる」

「この場合の
「全校生徒」には
もちろん」

「通常登校義務のない
十三組生も
含まれるんだよね」

およそ集團行動の取れない
十三組をそろそろい
一か所に集め！
そこを一網打尽にするって
ハラかよ——
とんでもねえ！



つかこの身も重もないほど、
ルールにのっとった正攻法！
確実に不知火のアイディアだ！！

どうすんだよ
めだかちゃん

この状況！
もう完全に
詰んでねえか！？



…こんなことで
おしまいなのかよ

俺はまだ
この腕章を
外したくないのに——



「あれ？」
「どうしたの
めだかちゃん」

「天を仰いで」
「仰天って感じ？」



黒箱塾 塾則
第一百五十九項

『塾頭解任請求二
関スル項目』



「……………」

「黒箱塾？」

この箱庭学園の前身——
黒箱塾における
リコールのルールだよ

塾頭——つまり
今でいう生徒会長に
解職を請求する場合

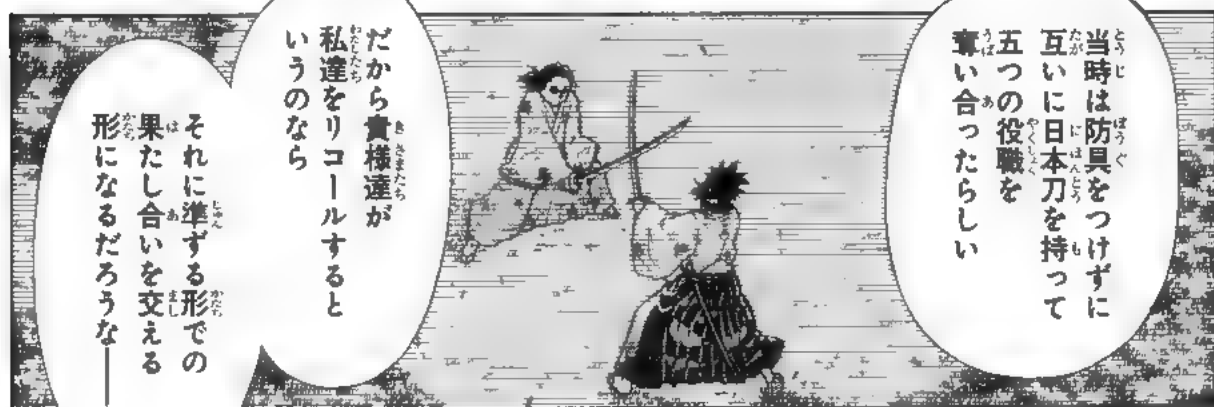
塾頭側と請求者側の
決闘をもって
次期塾頭を選出するという
内容だ



当時は防具をつけずに
互いに日本刀を持って
五つの役職を
奪い合ったらしい

だから貴様達が
私達をリコールすると
いうのなら

それに準ずる形での
果たし合いを交える
形になるだろうな——



…箱庭学園って
昔塾だったのか？

…百年以上
前の話やけどな

ちゅーかあの子なんで
そんな時代の
レギュレーション
知っとんねん

そちらが
ルールに則って
攻めてくるなら

こちらも
ルールに則って
受けて立つまでだ

球磨川禊

「…そんな文明開化以前に
定められた
野蛮な決まりごとが
現代で通用すると思うの？」

「塾則なんて
手続き上 たまたま
撤廃されてないってだけの
ルールでしょ？」

それを言うなら
貴様の出してきたルールは
学園史上一度も
使用されたことのない条文だ

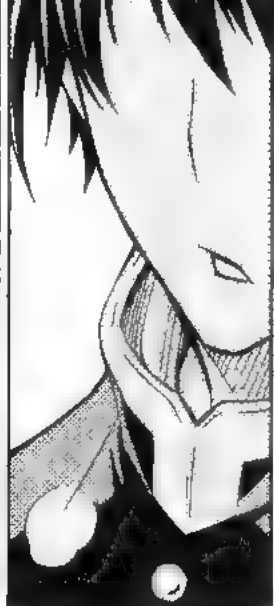
塾則 第百五十九項には
過去三度の適用実績――
前例がある

…やっぱり
大したもんだわ
あの子

あんな
絶体絶命の状態から
五分にまで戻すなんて

やっぱり箱庭学園の
生徒会長は

めだかちゃんしか
いねえ!!!



「オツケー！」
「それでこそ
黒神めだかだ」



「校則や生徒会則くらいは
当然知ってる
と思っただけ」

「まさかカビの生えた
塾則まで押さえてるとは
恐れ入ったよ！」

「原則同士が
対立した場合の判断は
現生徒会長に委ねられるのが
原則」

「リコールを
宣言してしまった以上」

「僕達は
めだかちゃんに従うしか
ないってわけだ」



「してやられたよ」

「それともここまで
計算通りかな？」

「不知火ちゃん」



異存は
ないようだな

ならば規定に基づき
たった今この瞬間より
新生徒会と現生徒会の
決闘を開始する

生徒会選挙——否



生徒会

せい
と
かい





戦^{せん}拳^{きょ}だ。^よ



黒箱塾時代の
塾則に基づく
生徒会戦争ね

あーあ

やっちゃまったな
黒神

今でこそ
文武両道で通ってる
箱庭学園だが

黒箱塾時代は
冗談みたいな
武芸重視の学派
だったんだ

よりもよって
そんな時代のルールで
マイナス十三組と
やり合おうなんて
自殺行為を超えて
もはや殺人的だぞ

生徒会長として
あるまじき判断だ

お前のせいで
箱庭学園はもう
おしまいに近いよ

そつ…そんな言い方は
やめてよ日之影先輩！

あの状況では
他に方法なんか
なかったんだから！

黒神さんがいなかったら
近いどころか
もうおしまいだった！！

よいのだ
喜界島会計

確かに

日之影前会長の
言う通りだよ

あの場では
ああするしか
なかったとはいえ

他に方法が
なかったとも
思わん

結局球磨川に先手を
打たれてしまった—
これはどう考えても
私のミスだ

黒神さん…

だって…

わかってるよ喜界島—
俺だって本心じや
黒神を褒めたいんだぜ

よくやったと
抱きしめてやりたい
くらいだ

けどそれでも
生徒会長なら
この危機的状況を
ほんの少しでも
「うまくやった」なんて
思っちゃ駄目なんだよ

…で

その生徒会戦挙って
どういうルールで
行われるのかな？

ざっくり説明すれば
形式自体は
五対五の一般的な
団体戦だよ

五戦やって
三勝した方の
勝ち—

バトルの形式
及び舞台は
役職ごとに違うけれど

基本的には
強度を競う真剣勝負と
考えてもらっていい

ちなみにこの行事は
それぞれの舞台設定に
時間を要するので
週一のペースで

即ち
五週間かけて
行われるんだ

だから
うん

夏休みを丸々
使う形になるね

ハ…
おいおい
勘弁してくれよ

俺は夏休みには
仙台へ旅行に行く
予定になってんだよ

ほら俺
歴女だからよー

心配しなくとも
戦うことになるのは
生徒会役員だけだ

生徒会役員以外は
したくたつて
手出しできねーよ

仙台でも盛岡でも
好きなところに行けばいいさ

ただし
副会長

学園
副会長
生徒会

戦う原因にもなった
肝心の空席は
早急に埋めなきゃ
ならねーだろうな

ケツ！

しよーがねーな
俺が副会長に
なってやるよ！

まだ頼んでも
いないのに！

この子やつは
基本いい子じゃね？

ふむ

まあそれはまた
おいおい考えると
しましてー

そして
やんわりと断った！！



さしあたって
我々に必要なのは
マイナス十三組に
対抗するための
下地作りでしょう

例の凶化合宿

準備を急いで
もらえますか
日之影前会長



：確かに
そうなんだがな

しかし

元々合宿には
夏休みをフルで使うつもり
だったからなあ

どんな
急造のハイペースで
やったとしても
課程終了まで
二週間はかかる

つまり

どうしたって
最初の庶務戦には
間に合わない――



間に
合わない

じゃあ
すまないかもね

「不慮の事故」
蝶ヶ崎鐵々丸と
「致死武器」
志布志飛沫

まさかあのふたりが
既に転校してきていた
なんてのは
私も予想外だったわ

：球磨川くんの後ろに
いたという二人の生徒の
ことですね

彼らも
人吉先生の患者
だったのですか？

いえ
あの子連と私は
初対面よ

彼らが入院したのは
私が医者を
辞めた後だから

でも有名よ

ある意味
球磨川くんより
有名

だって彼らは
あの病院の
最後の患者
なのだから

最後の
患者…？

それはどういう
意味ですか？

どうも
こうも！

フラスコ計画に基づき
異常者の管理・研究に
これ以上なく特化したはずの
医療機関が

当時六歳の蝶ヶ崎くんと
当時五歳の志布志さんに
跡形もなく潰されて

怪談の似合う
廃病院にされちゃった
ってだけの意味よ

それは
めだかちゃんを含む
どんな異常者でも
なしえなかった

偉業にして
異形

マイナス十三組が
全員揃う前に
球磨川くんが行動を
起こしたのは

間違いない
戦力としての
あの二人の存在が
大きいと思うな



元心療外科医の
あたしに言わせれば
めだかちゃん

正直
珠磨川くんと
蝶ヶ崎くんと
志布志さんが
向こうにいる時点で

既にこちらの
三敗は確定している
ようなものよ

.....



彼を一人で
行動させないよう
強く釘を刺した
つもりだったんだけどな

.....
ところで
なんでまた
善吉くんが
いないんだい？



まあ
誰に会いに
行ったのかが
わかるだけに

止めるに
止められなくって
です



ひとし
人吉くんなら

終業式が終わると
同時に食堂の方へ
駆け出しましたよ





なんでお前が
マイナス十三組に
入って

こともあろうか
球磨川なんかと
つるんでんだ？

まして
新生徒会の役員に
なるなんて!!

なんか事情でも
あるのか？

あいつらに脅されて
マイナス十三組への
協力を強要されてるとか

あひやひや☆

何を言うかと
思ったら!

相変わらず
ズレてんなあ
人吉は!

あたしが自分から
積極的に協力してるに
決まってんじやん

忘却
したの？

あたしって元々
そういうキャラじゃん
さー!

…じゃあお前が
マイナス十三組に
いるのは

あくまでも
お前の意思だつて
言うんだな？

当たり前だし
もちろんだよ

だったら
どうだって
言うのさ!



いやともすれば
お前がやりたくもねーこと
無理矢理やらされてんじや
ねーかって心配になってさ

カ
タ

やれやれ
取り越し苦労かよ
恥づかしー！

ほん
本っ当
馬鹿みてーだ俺！

…あんな
何言ってるの？

あたしのこと
怒ってるんじや
ないの？

あー？
怒ってるに
決まってるだろ
この野郎！

まったく
お前はいつだって
人を喰ったような
女だよ

けど
しょーがねー
わな

俺はお前の
そういうところが好きで
つるんでるんだから

でも
球磨川にだけは
本当に気をつけろよ

あいつはマジで
危険だから

ちよつ
待つ

待つ

あたしはねえ
人吉っ！

!?

お前が自分の意志で
動いてるなら
どーせなんか
企んでんだろ？

それなら
あえて
聞かぬーよ

でも不知火
これだけは
憶えとけ

敵^{てき}でも
友達^{ともだち}だからな

全部^{ぜんぶ}終わ^おったら
焼肉^{やきにく}食^くいに
行^いこーぜ



……

あれでもあたしを
見^み限^{かぎ}らないなんて
どうかしてるよ

人吉^{ひとよし}

なんだかんだ言^いって
あんたが誰^{だれ}よりも甘^{あま}いぜ

人^{ひと}を喰^くったような
女^{おんな}ねえ

あひやひや☆

でもあんたのことは
喰^くえないかなあ



直近の庶務戦は捨てて
凶化合宿は
書記戦以降の役員に
集中して行う

さつきも言ったが
二週間もあれば
そこそこの凶化は
可能だし

最終の会長戦には
万全の体制で
望めるわけだしな

ならばあえて
メンバーの補充はせず
善吉くんを副会長に
クラスアップさせるべき
だろうね

そうすれば
空席の庶務戦を
無傷の不戦敗で
終わらせられる

ああー
数字の上では
四戦で三勝しなければ
ならないから
キツく見えるが

実際の勝率は
相当跳ね上がる
はずだ

…戦略としては
上々だと思いますが

めだちゃんもそれで
問題ありませんか？

問題ねーわけ
ねーよな

めだかちゃん

如何な内容でも
如何な条件でも

如何な困難でも
如何な理不尽でも
享受する

それが
箱庭学園生徒会
執行部なんだから！

同安箱

善吉…

戦いを捨てるとか
不戦敗とか

手柄を立ててもねー
俺を副会長に
クラスアップさせるとか

そんな狡い戦略が
めだかちゃん率いる
生徒会執行部に
あるわけねーよな

同安箱



がんばれ

貴様を庶務に選んだ
私の目に
狂いがなかったことを
証明するがよい

がんばる

箱庭学園の庶務は
俺しかいねーって
改めてお前に
思わせてやるよ

……まあ
普通に考えれば

マイナス十三組は
庶務戦には江迎ちゃんを
出してくるだろうからね



相性は最悪とはいえ——
まともなバトルなら
善吉くんにも
分はあるでしょ

そう
普通に考えれば

マイナス思考で
考えなければ

「じゃーあ」
「そういうわけで」

貳ノ13
壹ノ13
貳ノ13
参ノ13

「まず生徒会戦拳の
初陣」
「庶務戦のこと
なんだけど——」

「僕^{はく}が
出る^でね。」



……
構^{かま}いせんが
しかし……

そうだよ

あんた生徒^{せいと}会長^{かいちょう}に
なりた^いんじや
なかつたのかい？

「別にー？」

「生徒^{せいと}会長^{かいちょう}なんて
誰^{だれ}がやっても
同じ^{おな}でしょ？」



「それより
勝てるところを
確実に勝つとこうよ」

「めだかちゃんとか
高貴ちゃんとか
強そーなのを
がんばって相手する
ことないって」

「単純に
五つのうち
三つ勝てば」

「僕達の夢は
それで実現
するんだしさ」

「まあ
任せて頂戴」

「生徒会が残り四戦
全て棄権したくなる
くらい」

「悲惨な試合を
見せてあげるよ」

後に
球磨川事件と称される
現生徒会と新生徒会の

超人・黒神めだかと
凶人・球磨川禊の
因縁深き決闘は
かくして口火を切る

そしてまずは
一週間後――

しかし

人吉くん

まむ

まむ



食べかすのパンを

人の口にふくめるものは

ど、かな

選挙管理委員会より公示
現生徒会と新生徒会による
生徒会臨時選挙を
以下の日程で執り行います。

七月二十五日 麻務戦
八月一日 書記戦
八月八日 会計戦
八月十五日 副会長戦
八月二十二日 会長戦
(全て午後一時)

尚一般生徒の見学は
原則禁止とさせて頂きます。
該当日時の登校については
安全を保証いたしかねますので
ご了承ください。

ケツ
公示ねー

学園が
破滅するか否かの
瀬戸際だつてのに

あくまでも
学園行事の体を崩さない
理事会は随分と分厚い
面の皮をお持ちだぜ

阿久根書記と
喜界島会計は
日之影前会長と
兄貴に師事して
修業中ですよ

例の凶化合宿という
奴です

でどーなのよ
黒神

そろそろ
時間だけでも

お前の頼れる仲間
はどうしてんの？

わかっていてることを
聞かないでください
お姉さま

ハハ！
こいつは失礼

でもお前は
抜けてきちゃって
いーのかよ

お前だって
会長戦に向けての
凶化合宿の最中には
違いねーんだろ？

…そのふたりから
自分達の分まで
応援してきてほしいと
焚きつけられましてね

まあ確かに
善吉をひとりきりで
戦わせておくわけにも
いきません

なるほど
なるほど

その肝心の
人吉善吉くんは
どうして来ない？

一週間じゃ凶化合宿は
効果がないと知って
あいつ

だったら独自に
別の訓練をするって
息巻いちやいたけど

今日ここにいない
ところを見ると
怖気づいちやった
かなー？

地下でも
自分のこと
怖がりだって
言ってたしよー

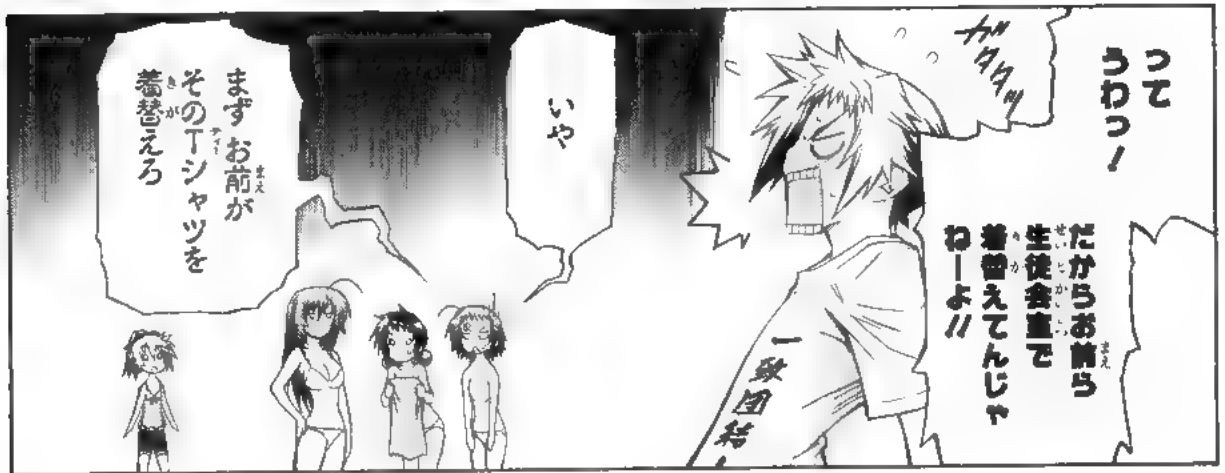
…怖気づいたんなら
怖気づいたで
いいと思うよ私は

正直
真黒くん達の
言ってた

庶務戦は
不戦敗にするっていうのが
最善のアイディアだって
今でも思うしねー

あーまあ

確かにそうかも
しれねーな
お母さん





ふん

Ｔシャツも時間も
ぎりぎりだな

善吉

で
どうなのだ

凶化合宿はおろか
兄貴のトレーニングを
断つてまで行つた
秘密の特訓とやらの
成果も

まさかぎりぎり
ということはなからうな？



カツ！

まさかお前から
愚問を聞くとはな

この一週間
俺はある意味で
真黒さんをも凌駕する
師匠から
教えを受けてきたんだ

今お前が
しなきゃならないのは
心配じゃなくて手配だぜ

俺の勝利を祝う
祝勝会のな！！



兄貴を超える
トレーナー……？
そんな奴が
この学園にいたか？

？

その漲る自信を見る限り
ハッタリつてわけじゃ
なさそうだが……

そうか

ノリはウザいが
ならばよからう
安心した

それでは
そろそろ受付会場に
向かうとしよう

生徒会の連中に
教えてやろう





「もうこないだは逃げられちゃって傷つきましたよー」

「あはっ」

「実は人吉先生に
お会いできるのが
楽しみ過ぎて
僕は五時間前から
ここで待ってたんです」

つかつかつか

「そういえば
結局エロ本は
怒江ちゃんと買いに
行ったんですけど」

「なんと人吉先生に
そっくりな女の子が
載っている一品を
発見しましてね」

「今度お持ちしますから
どれくらい似ているか
ご自分の目で
確かめてください！」

……うん

えーと
まあ

今度ね

ちよつと待て
球磨川
こっちを向け

ひとり
ということは
ひよつとして

貴様が
庶務戦に出馬する
つもりか？

「ひよつとしなくても
そのつもりだよ
めだかちゃん」

「僕は昔から
庶務になるのが
夢だったのさ！」

「だから今日は
よろしくね
善吉ちゃん」

「正々堂々
フェアに戦おう！」

やっぱり
真つ当なフォーメーションは
組んでこないか
マイナス十三組……

結果として
初戦を放棄しなかったのは
最悪の選択に
なってしまったわけね



エリートと呼ばれようと
アブノーマルと呼ばれようと
彼らは私達となんら
変わらぬ人間だぞ!?



喜んで悲しんだりする
人間だ!
おいそれと働つけて
いいものではない!

どうして
そんなことが
わからんのだ!?



あの黒神が
こんなに取り乱す
なんて...



いや今まで
ずっと我慢してたのが
人吉を狙い撃ちに
されたことで
とうとう破裂したって
感じ...?

「わからないくせに
わかってもらおうと
するなよ」



「めだかちゃん」

ぐっ...



「でもどうして
僕がこうなのか」

「ふうむ」



「言われてみれば
不思議だ」
「考えたことも
なかったなあ」



「うーん そうだねえ」
「たとえばの話
だけだよあ」

「人生は
プラスマイナス
ゼロだ」

「—って
言う奴いるじゃん」

「エリートでも
喜んで悲しんだり
するとか」

「幸福な人間も
それ相応の大変な
苦勞を積み重ねて
いるとか」

「まあおよそ
そんな意味で」

「だから人間は
みんな平等だって
言いたいんだと
思うけど」



『でも』

『人生はプラスマイナス
ゼロだ』って言う奴は』



『決まって
プラスの奴なんだ』

『幸せな奴だから
そんな悟ったみたいなの
常套句を言えるんだよ』



『少なくとも
過負荷は』

『プラスがあつたからって
マイナスが帳消しだなんて
思えたことはない——』

「なんのことはない」
「僕は幸せでプラスな
みんなに」

「マイナスの気持ち
をわかってほしいだけ
なのかもしれないね」

……
どうせそれも
嘘なのであろう

すがりつきたく
なるような嘘だ！

「…うん」

「きっと
そうだね」

「とにかく僕は
めだかちゃんとは
戦わない」

「僕はきみが
嫌いだからね」

「会長戦の相手は
他の過負荷が
務めるよ」

「だからめだかちゃんは
僕が善吉ちゃんを
嫌というほど
螺子伏せる場面を」

「間近でじっくり
見ればいい」

…球磨川！

だから
貴様は——

それでは
定刻になりましたので
始めさせていただきます
存じます

まずはみなさま
本日はご多忙の中
こうしてお集まりいただき
ありがとうございます

!?

わたくしめは僭越ながら
今回の生徒会戦争を
管理させていただく
選挙管理委員会副委員長

二年十三組
長者原融通と
申す者でございます

ほんのひと夏の間では
ございますが
どちら様もよろしく
お願い致します

……
久しいな
長者原二年生

四月の総選挙
以来か

これはこれは
黒神さま

わたくしめのような者を
ご記憶いただけていたとは
恐悦至極にございます

しかし生徒会執行部や
風紀委員会と違い
選挙管理委員会は
ご存知の通り日陰の身

選挙が終われば
どうか我々のことは
お忘れいただきたく……

そもそも
このわたくしめとしましては
まさかあなた様の選挙を
二度も管理できようとは思
いも寄りませんでした

選挙管理委員会の
誇りにかけ！
公平な審判を進行致す
所存にはございますが

何分この通り
緊張しております——
至らぬところがあれば
遠慮なく仰ってください

ペッ

ニおー

球磨川さまも
もちろん

わたくしめに不満が
ございますれば

普処致しますので
忌憚なきご意見を
頂戴願いたく
存じます

「んー」
「不満ねえ」

「いきなりそんなこと
言われてもなあ——」

ボリ

ボリ



名前こそ融通と書くが
あれくらい厳格な人間も
珍しい

どんな圧力も
あいつの審判には
一切通用しない

そう言えば
長者原くんって
雲仙くんの唯一の
男友達なんだよね

あー
ルールを人より上に
置いているってトコで
気が合うんだろうなー

徹底的にフェアに！
ありえないほど公平に！
この生徒会戦争を
取り仕切ってくれるはずだぜ

…しかしそれは
裏を返せば

我々が負けた場合
もうリカバリはきかん
ということでもある

公約通りに
十三組が抹殺されようと
学園が破滅しようとして
マイナス十三組が勝てば

長者原二年生は
躊躇なく連中を
生徒会役員に
選出するであろうな…

大丈夫だよ
めだかちゃん

つまり
勝てばいいって
ことだろ

敵が・球磨川の方が・俺は勝ちやすい。

不知火や江迎を
相手にするより
よっぽど気が楽だぜ

だからめだかちゃんはいつもみたいに無駄に偉そうに

どつしり悠然と構えていてくれ

善吉…

おい球磨川——
お前が何をほざこうと俺は興味がねえ

お前がどうしてこんなことをするのかなんて知らねーし

お前がどうしてそんな人間なのかなんて知りたくもねー

お前こそわかってもらおうなんて思っただけやねーぞ
図々しい

お前は意味不明なキャラのまま誰にも理解されることなく俺に負けて箱庭学園から出ていくのさ

ただだからその前に

お前にたったひとつだけ言っておいてやる



じんせい
人生は
プラスだ



それではただいまより
生徒会戦挙 第一回戦

庶務戦を始めさせて
いただきます

ちなみに
本選挙は本校の前身である
黒箱塾の塾則に基づき
行われますので
その点をあらかじめ
ご了承いただきましたたく存じます



ただし江戸時代の
レギュレーションを
そのまま採用するのは
さすがに無理がありますので

わたくしめの独断で
その塾則を現代風に
アレンジしておりますことを
ここにお断り申し上げますが

黒神さま
球磨川さま——
ご異議はございますか？

異議なし

「異議なし」



「巨」のカードで
ごさいますね
わかりました

さすが球磨川さまと
言わせていただき
ましょう

巨

初っ端でこのカードを
引ける人間は
あなた様の他には
おりません

蛇

蛇の巣

庶務戦の形式は
「毒蛇の巣窟」に
決定致しました

毒蛇の巣窟

これは
我々の用意した
十三の決闘法の中で

もっとも残虐な
ルールで行われる
選挙でございます

望み識！



生徒会の制服は
あと五色あるぞ！

それでは皆様
右手をご覧ください

縦十メートル
横十メートル
深さ十メートル

この深き闇こそが
生徒会戦争席巻戦の
舞台となります
ございます

はこ
だい
第68箱

「受け入れることだよ」

…学園のグラウンドに
こんな大穴を空けておって

何が深き闇だ

で

この穴の底で
善吉と球磨川が
戦うのか？

どうしてもと
仰るのであれば
それも考慮致しますが
黒神さま

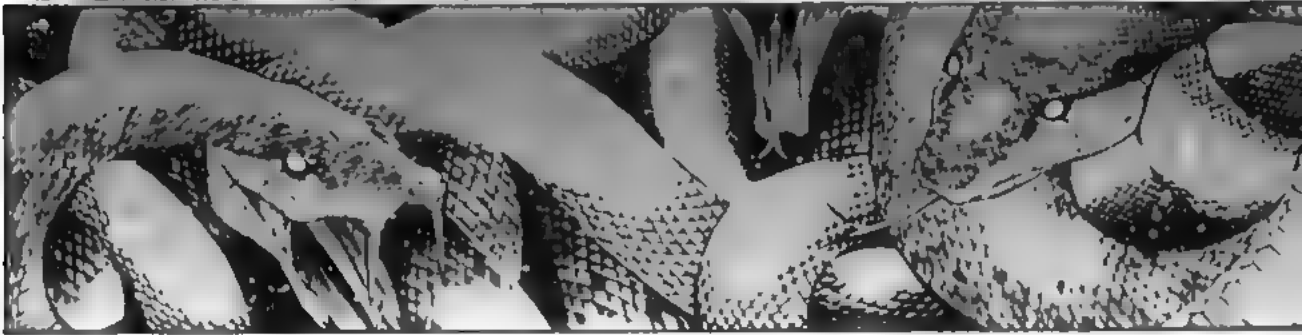
しかしわたくしめと
致しましてはあまり
お勧めできません

!?



なっ…
へっっ

蛇^{へび}
い
い
っ
!?



はい蛇^{へび}—

正確^{せいかく}には
トカゲ目クサリヘビ科^{トカゲ目クサリヘビ科}の
ハブ^{ハブ}にございます

賢明^{けんめい}なる皆々^{みなみなさま}様には
申し上げるまでも
ありませんが
猛毒^{もうどく}の種類^{しゅるい}に
ございます

異常^{ふじょう}者^まであろうと
過負荷^{マイナス}であろうと

咬^かまれたら大袈裟^{おかしな}でなく
命^{いのち}が危^{あや}ないとお
考えください

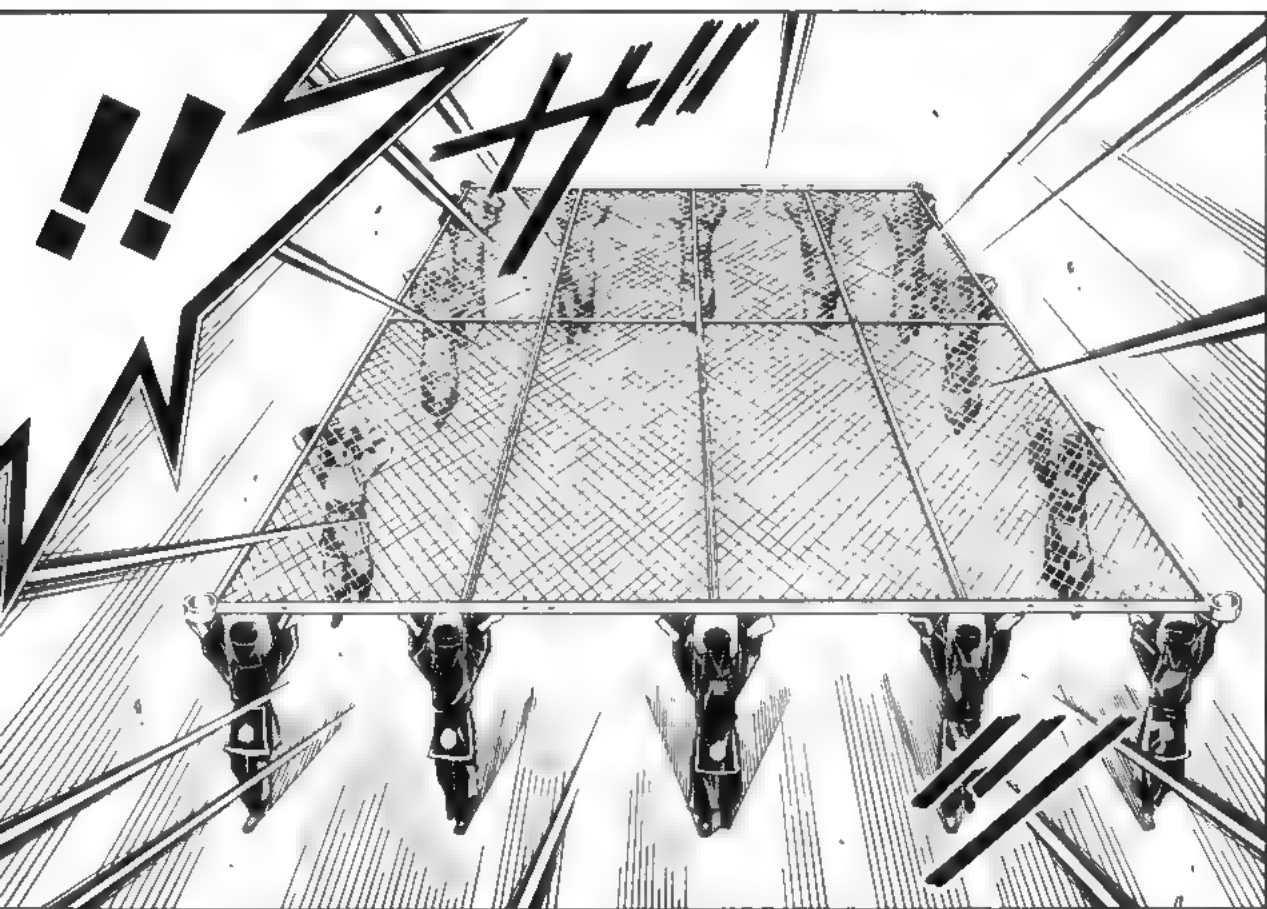
…じゃあ俺達はおれたち
どこで戦うんだよ

穴の底が
こんなことに
なってるんじや…

ええその件で
ございますが
実はこのリンク
まだ未完成でして—

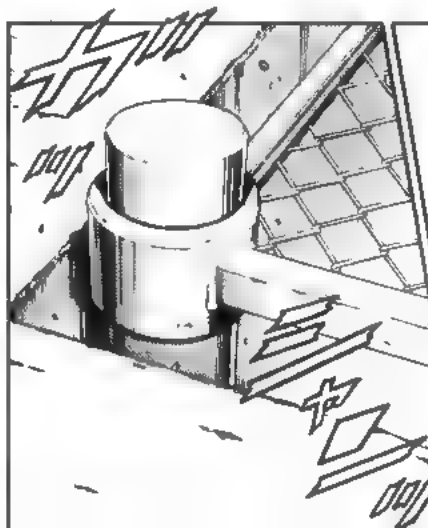
おやおや？

どうやら
丁度よいタイミングの
ようですよ



今度は
何…!?

かなあみ
金網い!?



決戦舞台
『毒蛇の巣窟』

これにて完成に
ございます



この金網の上にて
バトルを行っていただく
ことになりますね
ございますね

人吉さまと
球磨川さまには
穴の底ではなく



ちよ…
ちよつと待つてよ
長者原くん!

その金網!
かなあみ

ポールに
はめ込んだだけで
固定とかされてない
じゃない!!

そんな不安定な足場で
人間ふたりが
戦ったりしたら

はあ

しかし
ご母堂

これはそもそも
そういった競技で
ございまして

とりあえず
ルールを説明
致しますと

人吉さまが
腕にお巻きに
なっておられる腕章

それを奪えば
球磨川さまの勝利—
守りきれば
人吉さまの勝利と
なります

奪取または守防に
あたっていかなる
手段を用いようと
構いません

また
制限時間は特に
設けておりません

しかしあまり
強引かつ乱暴な
手段を取ったり

逆に慎重になって
時間をかけ過ぎたり
すると

当然リングとなる
金網は
どんだん穴の底へと
沈んでいきます

そして金網が
底に達すれば
もちろん両者とも

隙間をすり抜けた
弾猛な毒蛇の
餌食となるわけで
ございます

この場合は
両者失格となりますので
悪しからず
お願いいたします

っ!!

ちなみに
ルール上ギブアップは
認められておりまして

これ以上
金網が沈むと
蛇の牙が届きそうで
怖い

または相手には
どうしたって
敵わないと
思われた時には

その旨申告して
いただければ
その時点で
決着と致します

：私からも
ちよつと待てと
言わせてもらうぞ
長者原二年生

貴様らしくも
ない

そのルールは
いかにも不公平で
あろう

腕章を奪えば
それで勝ちとなる
球磨川に対し

制限時間が
ないので
善吉に勝利条件が
ないではないか

いかに腕章を
守り続けたところで
遅かれ早かれ金網は
穴の底に沈むのだから

ええですから
人吉さまの条件は

挑戦者である球磨川さまに
「まいった」の一言を
言わせることとなりますね

そもそも
君臨すべき生徒会が
クーデターを起こされる時点で
既に資格は
問われているのです

圧倒的な実力差で
挑戦者を屈服させる
ことができないと
いうのならば

生徒会戦争など
執り行う意味が
ないでしょう

挑戦者側に有利な
ルール体系になるのは
王者としての義務

または公正なる
罪則と考えて
いただけると
幸いに存じます

.....
言ってることは
わかるけどさ..
でも球磨川くんを
陥参させるなんて
事実上不可能でしょ

舞台も最悪だわ！
戦うのがめだかちゃんだったら
例の「動物避け」で、
毒蛇なんてものとも
しなかっただろうに――



「ねえ
善吉ちゃん」

「この庶務戦
なんだけどさあ」



「僕」

「わざと
負けたげ
よっか？」



「よく考えたら
人吉先生の前で
善吉ちゃんに酷いこと
したくないしさ！」

「あと選管の皆の
ノリが思いの外よくて
若干テンションが
下がっちゃったし」

球磨川…

てめえって
奴は…！



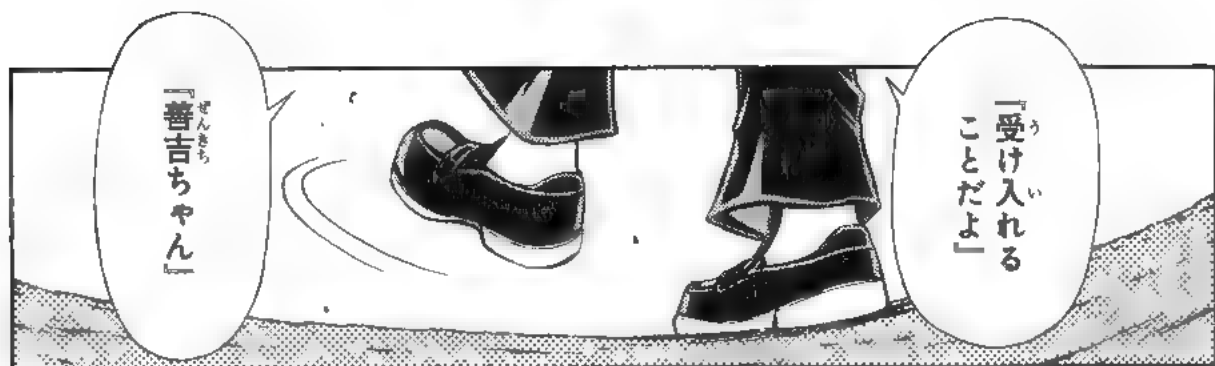
「あは！」
「なに怒ったの？」
「やーだー！」

「さっき
めだかちゃんのこと
あーんな偉そうに
諫めてたくせに！」

「忠告して
あげる」

「そうやって僕を
不快に思ってる
内は」

「百年かけても
きみには僕を
止められない」



「受け入れる
ことだよ」

「善吉ちゃん」

「不条理を」

「理不尽を」

「墮落を」

「混雑を」

「冤罪を」

「流れ弾を」

「見苦しさを」

「みっともなさを」

「嫉妬を」

「嘘泣きを」

「言い訳を」

「偽善を」

「偽悪を」

「風評を」

「密告を」

「格差を」

「裏切りを」

「虐待を」

「いかがわしさを」

「インチキを」

「不幸せを」

「不都合を」

「巻き添えを」

「二次被害を」

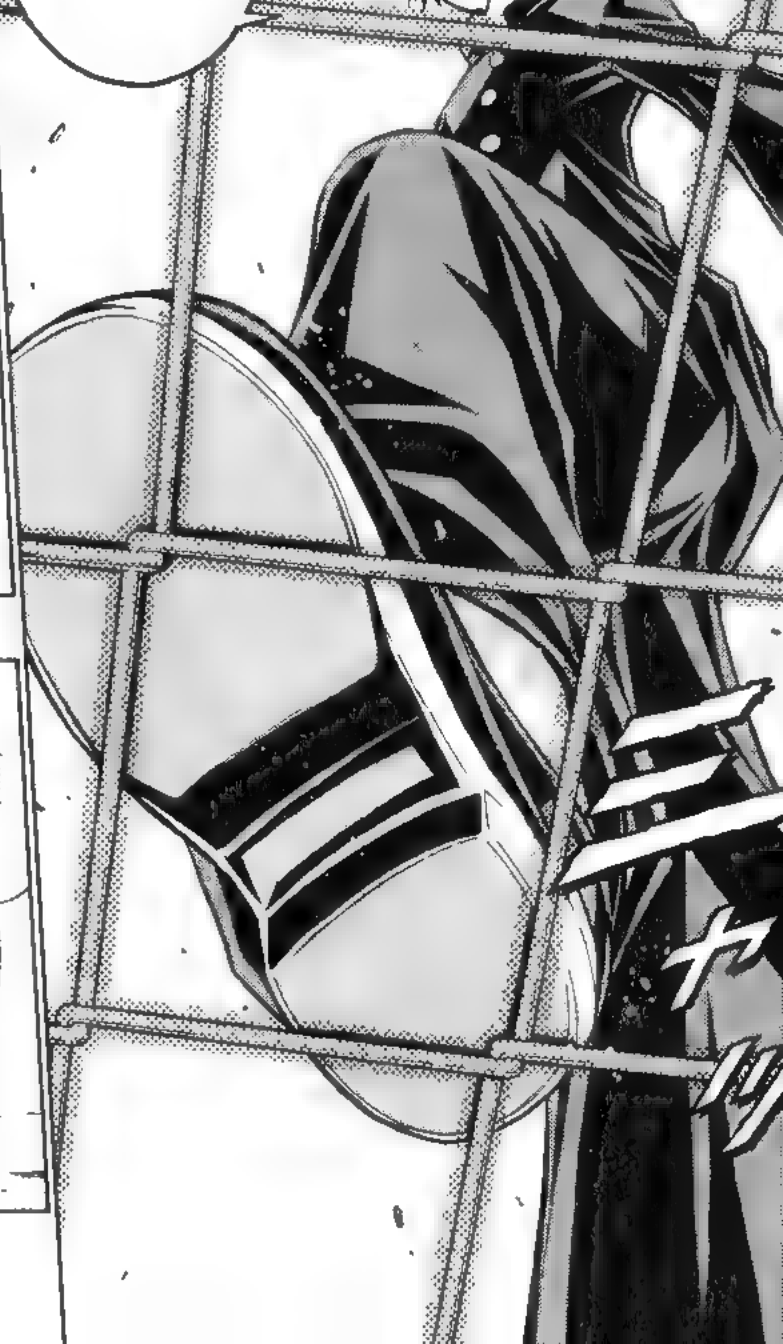
「愛しい
恋人のように
受け入れる
ことだ」

「愛しい
恋人のように
受け入れる
ことだ」



『そうすれば
きつと』

『僕^{ぼく}みたい
になれるよ』



毒蛇^{どくび}うごめく金網^{かみあみ}の上に
躊躇^{ちゅうちゆ}なく第一歩^{だいいちふ}を
踏み出^{ふみだ}しますか…
確かに！

この球磨川^{くまがわ}さまを
降参^{こうさん}させるのは
容易^{ようい}ではないでしょうね



…人吉^{ひとよし}

ねえ

今^{いま}からでも
棄権^{きけん}するってアリだと
私は^{わたし}思うよ？



あんたさつきから
ヘンに強がつてるけど

それは心底
あいつにブルってる
裏返しなんでしょ？

あいつと向かい合ったら
その時点で
また身動き取れなく
なっちゃうんじゃない？

元ノーマルで
今も異常をなくしてる
私だから
言えることだけど

逃げることは
恥ずかしいことじゃ
ないよ

むしろ
私は

負けるとわかってるのに
意地で逃げない方が

恥ずかしいと
思う

カッ！

ご忠告ありがとうございます
古賀先輩！

だけど俺は
恥知らずで
いるより

恥ずかしがり屋で
いたいと思う。



こうなると
気になるのはあいつが
この一週間

誰の下で
修業してきたのかって
ことだけだなー

まあ
まあ言っちゃあいるが
勝算がねーわけじゃ
ねーだろ



……もう！
本当男子って
どうしようも
ないなあ！



ですから
問題は

善吉がその人のもとで
どんな修業を積んで
きたのかという一点



……
それについては
心当たりが
ありますよ
確認こそ
ありませんが

しかし十中八九
間違いは
ないでしょう



「最初はちよつと
遊ばせてもらうね
善吉ちゃん——」

「と言っても
いきなり腕章を
奪っちゃっても
つまないし」



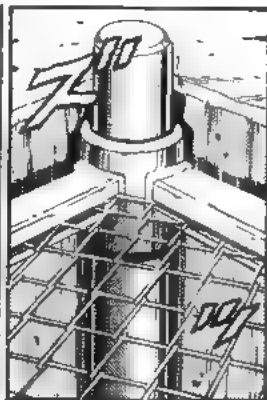
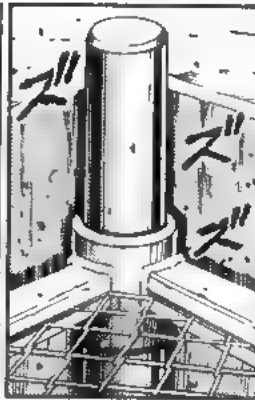
「さーて」
「それじゃ早速
おっぱじめようか
生徒会庶務戦！」





今ので五センチは沈みましたか…

どういふ形にせよ
案外あつという間に
終わるかもしれせんね
この勝負



「うわー
右腕が動かないー」

「い
ったーい」

「呼吸もなんだか
苦しいぞお」



てゆーか
あれ？

人吉の奴
全然フツーに
戦えてるじゃん

ああ
何故だろうな

さっぱり見当
つかねーぜ

？

人吉に一体
何があつたんだ？

「鎖骨が折れて
肺に突き刺さった
かなー」

「一生
後遺症が残るな
これは！」

うっ
相変わらず
動きが気持ち悪い！

比較じゃなく！
見ているだけで本当に
心が折られそうー



「あーでも
痛くなくなっ
てきた？」

「治る兆し
かなー」

「それとも
壊死する
兆候かなー」



「まっ」

「どっちでも
似たような
もんかあ！」





これからは
そのお方を魔王と呼んで
みんなで尊敬しよう!!

こりゃあこの一週間
人吉を鍛えたという
トレーナーは
兄貴をはるかに越える
名伯楽に違いないぜ!

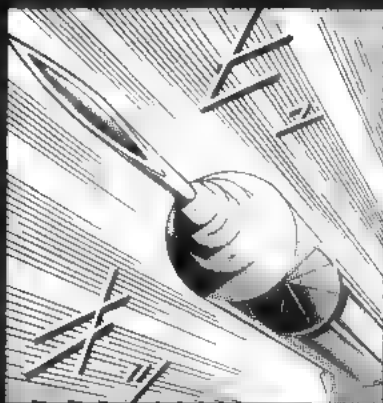
心を折られるどころか
人吉の奴!
球磨川に対する
恐怖心!トラウマを
完全にクリアして
やがる!

魔法使いと
呼ばれる兄貴でも
こうはいくまい!

すーすげえ!
モロに顔面に
蹴りが入った!







いや別に
ないですけど

は？

キッパリ

俺に何か
お願いしたいこと
とかねーの？

ふーん
ところで
お前



いや
あるはずだ
よく思い出せ

高千穂先輩！ 宗像先輩！

そして古賀ちゃんとか――

「十三組の十三人」の戦術班を
見事に鍛え上げた

フラスコ計画統括のこの俺に！

人間の肉体を改造し
強化することにかけては
右に出る者のいない

この俺に！

お前はお願ひしたいことがあるに決まっている！！

え？

え？

ええええっ!?



まあそんな感じで
まさしく嫌々
やむをえず暇潰しに！

俺は人吉を一週間
調教してやったって
わけさ！

いい子なのに
性格がとても
鬱陶しい！！

ふーん
そっかー

最近名瀬ちゃん
付き合い悪いと
思ってたけど

そっかー
人吉と遊んで
たんだー



.....

いいや違うんだ
古賀ちゃん
聞いてくれ！

俺はあくまで
実験の一環として

わた

わた

いーよいーよ
いーんだよー

私なんて
名瀬ちゃんにとつては
所詮実験台の一人に
過ぎないもんねー

人吉に忠告とか
しちやって
馬鹿みたい私ー

……善吉を
鍛えてくれたことは
ありがたいですが

お姉さま

まさか
改造手術を施して
薬漬けにしたということ
ではないでしょうね

ハハ

そうしてやっても
よかったんだがな

残念ながら一週間じゃ
時間が足りねーのは
凶化合宿でも改造手術でも
同じだよ

ではどんな手を
使ったのです

どうやって
善吉に

マイナス
球磨川に対する
恐怖心やトラウマを
克服させたのですか？

そこは
見解の相違だな
めだかちゃん

クリアしたとは
言ったが

俺は別に
克服したとは
言ってねーぜ

は？





目を！

目を閉じて
…っ!?

そう！
マイナス十三組が見るだけで
心が折れる連中だってんなら
対策はシンプルだ

見な・き・や・い・ん・だ・よ
要するに！

そんな簡単な
ことでいいの…？

それに
目を閉じたまま
あんな足場で
戦うなんて…

そっちの方が
よっぽど怖くない？

だからこの一週間は
その辺をみっちり
鍛えてやったのさ

トレーニング中はもちろん
食事中も睡眠中も
目隠しを外すことなく
生活してもらった

動物相手の
じゃれあいから
始まって

最後には目を閉じたまま
ボクシング部の連中と
スパarringできるとこまで
いったぜ

今ならあいつは
目隠ししたままで
学園一周できる
だらうよ

むろん
あくまで姑息療法

ルール次第じゃ
あっさり大敗
してたかも
しんねーけどな

大敗の可能性を
増やしてこそ
勝率を上げる！

それがこの俺—
名瀬天歌の戦法だ
!!

おわかりかい？
球磨川先輩

受け入れるも
何も！

最初から
眼中にねーんだよ
お前のことなんか！！

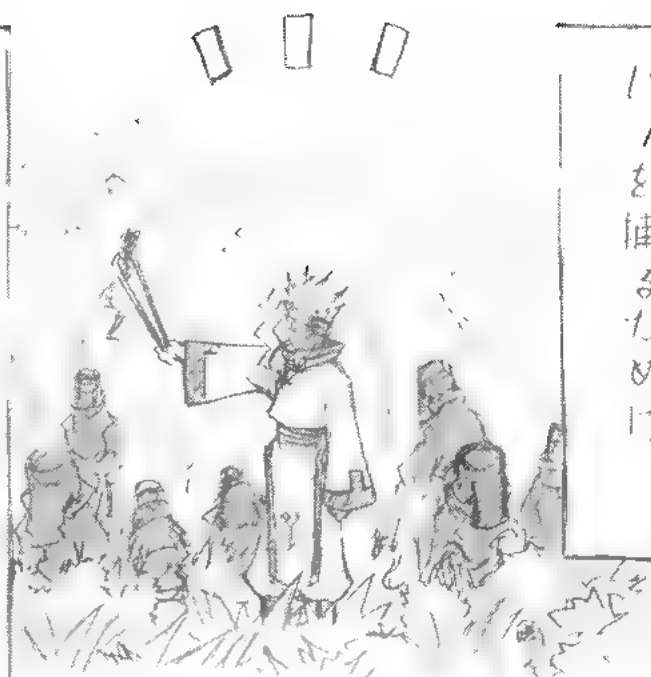
「…やれやれ」
「目の前にいる僕を
無視するなんて
酷いなあ」

「これは
週刊少年ジャンプだったら
規制されかねない
いじめの描写だよ」

もちろん
俺が人吉に授けた
戦法はそれだけじゃ
ねーぜー

シエム
CMの後も
まだまだ続くぞ
魔王・名瀬ちゃんの
マイナス無効化
システム！

オウゴン
ハノを捕るために



運官船で
沖縄県に行つて参りました。

オウゴン

んー
とりあえず
人吉くん

まずまずの
立ち上がりつつゆう
感じやな

ケツ！
まー人吉なら
あれくらい当たり前
だろうよ

まともに戦って
今のあいつに勝てる奴
なんて黒神くらの
もんだろ

つか！
なんでオレ達が
こんな覗きみてーな
真似しなきゃ
なんねーんだ？

しやーない
やん

会場は
選管の子らに
完全に封鎖
されとんねんから

ちゅーか！
当たり前ゆーなら
わざわざ雲仙くん

風紀委員会の目エ盗んで
病院抜け出してまで
観戦に来んでも
よかったやろ

人の話
聞いてとけよ
銅島先輩

まともに
戦ったらつつたろーが

オレ達が束になっても
敵わなかった
あの球磨川って野郎は

どこを取っても
まともじゃねえー

お



だい はこ
第69箱

「強くなったね」

「目を閉じたくらいで
僕の過負荷を
封じた気になるなんて」

「それこそ現実から
目を背けているとしか
思えないな 善吉ちゃん」



「だって
おぞましき僕の過負荷が
見えなくっても」

「おぞましき僕の過負荷は
聞こえるだろう——？」





!!

ああ
もちろん聞こえるぜ
球磨川

お前の声は
お前の位置を
教えてくれる

俺にとって
格好の目印だ！



『……………!!』



見えなかつたが
聞こえなかつたが
お前の気持ち悪さは
肌で感じるぜ

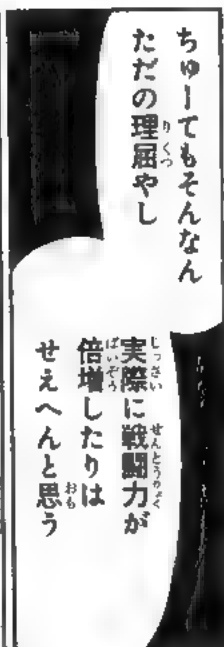
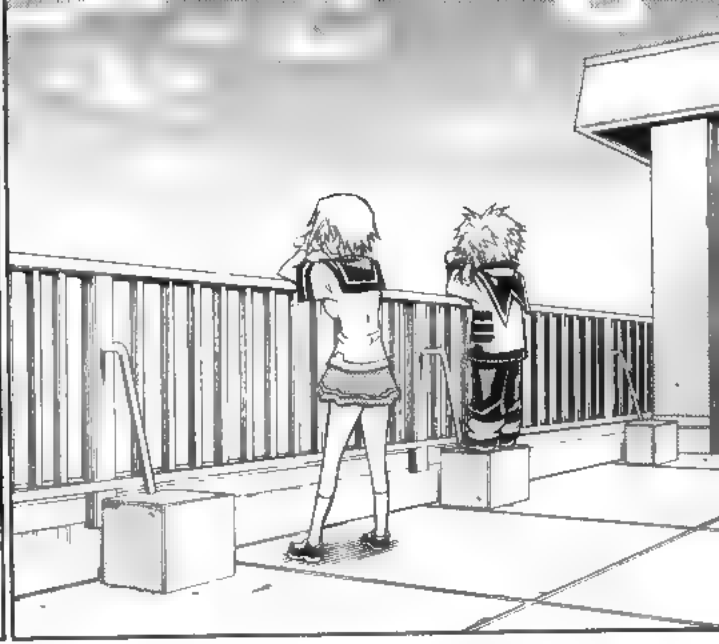
球磨川
アア!!

『う』

『ぐあ』

『善吉』

『ちゃん——』



いやいやいや！
前言撤回するわけじゃ
ねーけどよ

人吉善吉！

あの一年坊あそこまで
強かったか？

あの問答無用さ！
まるで黒神の乱神モード
じゃねーかよ！

まあ元々
素質はあったけど

この場合は
目玉閉じて戦つとんが
ええように働いとるん
やろな

はあ？ 何だよそれ？
目を閉じて戦つたら
普通弱くなるだろーが

人間ちゆう生物は
膨大な視覚情報を
処理するんに
脳の演算機能を
半分以上使うとるんよ

そこを大胆に
カットすれば
その分をパワーやら
スピードやらに回せる

ちゅーてもそんな
ただの理屈やし

実際に戦闘力が
倍増したりは
せえへんと思う

けどまあ
気休め程度には
メンタルが強化
されるやろな

本当はウチが
鍛えたりたかってん
けどねー

どうやらええ師匠を
見つけたみたいやん
人吉くん！

言うたら
人為的な
乱神モード！

ハン！

まーまーって
ところだな



ところで人吉！
何も考えねーで
蹴りまくるのは
いーけどよ！

かなあみ
ほう
金網の方は
もう結構沈んでるぞ
き
気をつける！！



目を閉じている選手への助言は
やや反則気味ですが…
まあアドバイス禁止のルールが
あるわけでもないですし
大目に見ましよう



しかし試合開始から
まだ一分も経っていないのに
リングが半分以上沈むとは—
恐るべきは人吉さまのキックの
威力といったところでしょいか

おっと！
そうだったな

おれ
俺は球磨川を
ギブアップさせなきや
なんねーんだった

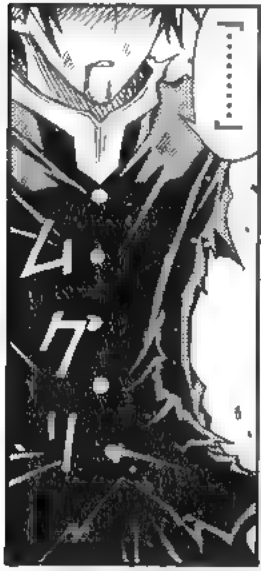


息を潜めたって
どこにいたか丸わかりだぜ！

視界のなさにも
慣れてきたし—
ここから先は
更に蹴る！



降参するなら
今のうちだぞ
球磨川親！



「うん」
「参った！」

「僕の」
「負けだよ」

「強くなったね」
「善吉ちゃん！」



「いつまでも
か弱い後輩だと
思っていたけど」

「いつの間にか
僕を越えてたんだね」

「なんだろう
不思議と全然
悔しくないや」

「ほっとしたよ」
「きみはもう
僕がいなくても
大丈夫だ」





「僕がこの学園に
来なければならなかった
理由は――」

「ほら」

「親が高校くらい
出とけって
うるさいんだよ」

「相手^{はく}が
降参^{こうさん}したくらいで
油断^{ゆだん}しないでちょうだい」

「こともあろうか
この僕^{ぼく}と」

「スポーツでも
してるつもり
だったのかい？」

くっ…

球磨川^{くまがわ}
アア
……!!

「いいねその顔^{かお}
「やつぱり
善吉^{ぜんきち}ちゃんは」

「目が
奇麗^{きれい}だ」

~~~~~  
っ!!

長者原<sup>ちやうしげはら</sup>二年生<sup>ねんせい</sup>!  
あやつは降参<sup>こうさん</sup>を  
宣言<sup>せんげん</sup>した後に  
善吉<sup>ぜんきち</sup>を攻撃<sup>こうげき</sup>したぞ!

あれは  
反則<sup>はんそく</sup>では  
ないのか!?

……

いえ黒神さま——  
反則以前の問題です

球磨川さまが  
降参を宣言した時点で  
既に勝敗は決しております

庶務戦は  
人吉さまの勝利——

即ち現生徒会の勝利で  
幕を閉じました

だ……だったら！  
早く止めに入り——

「止められないんだよ」  
「めだかちゃん」

「長者原くんの  
言う通り」

「僕の負けで  
決着はついている」

「だから……  
ここから先は」

「僕と善吉ちゃんの  
個人的な喧嘩だよ」

「だから止められない」  
「生徒同士の  
プライベートに」

「介入する権利は  
選挙管理委員会には  
ないからねえ」

：試合の勝敗を  
度外視してただただ  
善吉くんを痛めつけにきた  
迂闊だったとしか  
言いようがないわ！

マイナス十三組が  
勝ちに来るわけなんてないって  
気付くべきだった！  
球磨川くんがこれまで  
ルールに従って戦ってたこと自体が  
もう完璧な前振りじゃない！！





ぐっ…ぜっ  
ぜんきち  
善吉っ!!



人吉先生!

何故!  
どうして邪魔を  
するのです!?

冷静になりなさい  
めだかちゃん!

あなたが今  
飛び降りようとした  
金網を見て!!



さっきの攻撃のショックで  
もうあんなギリギリの  
深さにまで  
沈んでるんだよ!

あなたが飛び乗ったら  
その重みと衝撃で  
一気に底まで到達するわ!

そうになったら  
生き残れるのは  
『動物避け』のスキルを持つ  
あなただけじゃない!!

.....  
ひょっとして球磨川の奴  
黒神が助けに入れない  
位置にまでフェンスが  
下がるのを待ってたの...?

長者殿さんの  
公正なジャッジすらも  
計算して...?

信じられない——  
高校生っていうか...  
もう人間の発想じゃ  
ないでしょそれ!!



「だから  
言っただでしょ？」  
「善吉ちゃん」

「わざと  
負けてあげるって」

「きみは勝って  
格好良く  
死ねばいい」

「僕は負けて  
みっともなく  
生きるからさ」



.....!?  
怪我が...

みるみる  
治って...

...同じだ

オレ達が  
やられた時と  
まったく同じ——



あの時も球磨川は  
オレ達にいくら  
痛めつけられても  
平氣の平左で



どんな傷も  
どんな怪我も  
瞬時に治して  
立ち上がってきた――

まるで  
無限ループの  
ごとく！

「……」



「おいおい」  
「適当なことを  
言わないでよ  
きみ達」

「それじゃあまるで  
僕の過負荷が  
治癒能力か何か  
みたいじゃないか」

『治癒能力のように  
前向きの能力が』

『僕のような  
負完全から  
生まれるわけが  
ないだろう』

こっちを見た  
――ちゅうか！  
なんで声が  
聞こえんねん！

向こうからも！  
こっちからも！！



「僕はただ  
善吉ちゃんのがんばりを」

「僕が彼に  
蹴られまくったという  
現実を」

「なかったことにした」  
だけさ」

「現実を  
なかつたこと  
虚構にする」

「それが僕の  
オールフイクション  
「大嘘憑き」だ」



チツ！  
ひとよし  
人吉の野郎  
何やってんだ！

かんぜん  
完全に  
ビビらされて  
やがる！



おちつけ  
ひとよし  
人吉イ！  
まず目を閉じろ！

いったん  
一旦リセットだ  
切り替えろ！！

さつきと状況は  
なんかに  
何も変わってねえだろ！  
訓練通りにやれば  
大丈夫だ！！



「いやあ  
名瀬さん」

「目を閉じる  
必要は」

「もうないんじや  
ないかなあ」







『きみの視力<sup>しりよく</sup>を  
「なかつたことにした」』



「だけど  
あんしん  
安心して  
ぜんきち  
善吉ちゃん」

「それでもきつと  
じごく  
地獄は見られると  
おも  
思うから。」



んじ——っ

わたくしめは  
ちゃんと  
見えておりますよ

念のため。

オハナエさま

サングラス  
おたいに





「僕が  
悪かった」

「許して」

「僕の負けだよ  
めだかちゃん」

「今までのこと  
全部謝るから  
許してよ」

「まだ  
死にたくない」

「お願いだよ」  
「これ以上  
僕を殴らないで」







だい はこ す  
第70箱 「好きだぜ」



「二度と人の心を  
傷つけないって  
約束する」

「この中学校からも  
出ていって」

「二度と  
きみ達の前に  
姿を現さない」

「僕は  
反省したんだ」

「お願いだ——  
僕に罪を償う機会を  
恵んでくれ」

……本当だな？

今度こそ

今度こそ今度こそ今度こそ  
今度こそ今度こそ今度こそ  
今度こそ今度こそ今度こそ  
……本当だな？

「うん」

「めだかちゃんだけは  
僕のことを  
信じてくれるよね」

………  
わかった

信じよう

ゆる  
す

「はあ？  
俺の視力を  
「なかつたこと」にした  
だつて？」

「それが  
どうした  
馬鹿馬鹿しい？」

「すべてをなかつたことにする」  
過負荷——「大嫌悪」——

なるほど  
大したスキルだが——  
今更、無きもしねえよ！  
てめえみたいな真完全まへんぜんに  
お似合いのスキルってだけじゃねーか！

元々俺は  
目を閉じたままで  
戦うつもりだったんだ！

視力を  
「なかつたこと」に  
されたところで  
痛くもかゆくも  
ねえよ！

むしろ  
目を開くまでもなく  
お前の不気味な姿が  
見えなくなつて  
丁度いいぜ！

ありがとうございます！  
礼を言いたいですねーだ！

さあ！  
続けるぞ  
球磨川！  
くまがわ

なんなら  
俺はお前を  
なかつたことに  
してやるよ！！

『そっだよ  
ぜんぜんさ  
善吉ちゃん』

『それが  
「見ない」と「見えない」の  
ちが  
違いだ』

度務



うっ

うわあああああ  
あああああつ!!



「ひとつ  
聞いてみたいん  
だけど」

「ところで  
善吉ちゃん」



「目を閉じた方が  
強くなる」とか

「そんなたわごとを  
本気で信じて  
いたのかな...?」

あああああああ  
あああああつ!!





「漫画じゃ  
ないんだから」

「見えた方が  
強いに  
決まってるだろ」



お姉さま！

マイナス無効化システム  
とやらは  
もう品切れなのですか！？

なめんな  
風邪

システムは13まで  
準備してある！

ただよ……  
目玉瞑るってのが  
代表例だが

基本俺の戦略は  
自己暗示みてーな  
もんだからなー



人吉が  
ああして球磨川の恐怖を  
思い出しちまった以上

システムは  
反転し

いまや  
マイナスにしか  
働かねえ——

つーか  
聞いてねえんだよ

なんだよ

「すべてをなかった

ことにする

「大嘘書き」って!

てつきり俺は  
球磨川の過負荷は  
問答無用な治癒・回復能力  
だと思ってたぜ

あるいはせめて  
幻覚系とかよー

フタを開けてみりやあ  
全然違うじやねえか!  
むしろ真逆と  
言っていい!

それを先に  
教えといてくれりやー  
手の打ちようは  
あったんだよ

お前ら 中学からの  
敵対なんだから  
知ってたはずだろ?

……..  
知りませんよ

中学生の時の  
球磨川は

あんな物理法則を  
無視するような真似は  
できませんでした

もちろん私の知る  
四歳の頃の球磨川くんも  
あんなことはできなかったよ

できたのかも  
しれないけど

少なくとも  
やってはいなかった

だから  
あれはきつと  
この三年間で  
彼が新たに得た

否

あら  
新たに失った  
マイナスイナス  
過負荷

!! がああああつ



「あはっ」  
「そうそう」

「弱くて  
弱々しくて  
弱っちい  
善吉ちゃんは」

「そうやって  
違いつくばってるのが  
あつらえたように  
よく似合うよ」



「そうだ  
そういえば  
善吉ちゃん」

「人生はナントカだって  
試合前に言ってたじゃ  
ない——  
あれ何だったけ？」

「忘れちゃったから  
もう一回教えてよ」



「見えなくても  
球磨川がどこにいるのかは  
声のする方向や肌の感覚でわかるはず」

「ただ、ただ、ただ、  
身体の震えが止まらないんだ」



チッ!

怯えてんじゃ  
ねーよ人吉!

てめーを  
鍛えてやったのは  
誰だと思ってるやがる!!

聞けばそいつの  
「大嘘憑き」は  
最近身につけたばかりの  
過負荷らしいじゃねーか!!

つまり  
使い慣れてねーって  
ことだ!  
ビビるこたあねえんだよ!!

すべてをなかった  
ことにするつてのも  
ハツタリに  
決まっている!

ほんとう  
本当にそこまでのことが  
できるんなら  
そもそもこんな戦争は  
成立しねえ!

むしろ  
アンコントロールラブルな  
能力と見た方がいいぜ!!

名瀬先輩...

師匠の言葉を受けて  
善吉くんも少しは冷静に  
なれたみたいね

「だくだ大嘘憑き」の  
内実を知って尚  
そんな考え方ができるのは  
あなたくらいのものよ  
名瀬さん

「……名答」

「確かに  
この「大嘘憑き」

「怒江ちゃんの  
「荒廃した腐花」みたいに  
乱用できるタイプの  
過負荷じゃないよ」



「だって  
油断すると  
世界そのものを」

「なかったことに  
しちゃうからね」



「ただしまるつきり  
コントロールできない  
というわけでもない」

「たとえば  
善吉ちゃんの視力を  
なかったことにした現実を」

「更になかったことに  
することくらいは  
できる」



「あれ？」  
「反応したね  
善吉ちゃん」

「まさかとは思うけど  
戻してほしいの？」

「僕のことなんて  
眼中にないって」

「あんなに格好よく  
言ってたのに  
おかしいなあ」

「まあでも  
そろそろ  
いい時間だし」

「喧嘩はやめて  
仲直りしよっか  
善吉ちゃん」



…仲直り…  
なかなお

だど？

「うん」

「善吉ちゃんか  
ぜんきちちゃん  
僕と友達になつて  
くれるなら」

「その目」

「戻してあげても  
もどしてあげても  
いいよ」

「僕達がこんな風に  
ぼくたちが  
争う理由なんか  
なをうりゆう  
何もないじゃないか」

「そんなことより  
なかなことより  
仲良くしようよ」

「いろいろ  
いろいろ  
行き違いも  
いきちがひも  
あったけど」

「僕達はきっと  
ぼくたちは  
とてもいい友達同士に  
とてもいいともだちどうしに  
なれると思うんだ」

~~~~~  
っ!!

馬鹿な…
ばか
何言つてんだ
なにいってんだ
あの野郎…
あのやろう

なかったことを
なかつたことに
するなんて

そんな気の利いた
レトリックみてーなこと
できるわけねーだろ…

いえお姉さま…
いえおねえさま
球磨川は
くまがわ
やりますよ—
できなくっても
やります
球磨川は
くまがわ
善吉の心を
ぜんきちのこころ
折るためならば

不可能だって可能にし
ふかのかう
不可逆だって可逆にする—
ふかかへつ

「今まで
いっぱい意地悪して
ごめんね」

「それもこれも全部
善吉ちゃんの気を
惹きたいがため
だったんだよ」

「折角の夏休み
なんだから」
「これから一緒に
遊園地に行こう」

わかってる……
ここで俺が願けば
球磨川は本当に目を
戻してくれるだろうし
遊園地で楽しく遊んでくれるだろう

帰りには
マクドナルドにでも
連れていってくれるかも
じれない

昔からの先輩らしく
たらふく
おごってくれたりしてな

そうやって俺の心を

痛みを感じないほどに
優しく

優しく腐らせて
くれるんだと思う

よしんば俺の目を
戻せるというのが
願いだったとしても

少なくとも今願えば
この場からは逃れることが
できるじゃねえか

大体試合自体は
俺の勝利で
もう終わってるんだ

今更俺が折れても
生徒会が不利になる
わけじゃないんだし

だったら嘘でもいいから
適当に願いちまおうぜ

球磨川



俺はお前が
嫌いだ

だから

友達には
なれない



折れなかった…
視力を奪われて
なお

きつぱりと
黒川を拒絶した—

俺の心なんて
折れようと腐ろうと
どうでもいいんだ

でもここで
俺が屈したら
たかさんの心が
これからも黒川に
折られ続ける

試合とか勝敗とか
ましてプライドとか
そういう問題じゃ
なくって



それだけは
絶対に阻止しなきゃ
駄目なんだ!!

めだかちゃん!

楽しい高校生活
だったなあ!

入学式!
新入生代表の挨拶で
お前は いきなり
ぶちかましてくれたよなあ!

日の影先輩とも
実は最初は
モメてたしな!

目安箱を設置してからは
休む暇もなかった!

一学期だけで
百件以上は
悩みを解決したか?

花の世話を
全部俺に
押しつけやがって!

そうそうたる先輩方を
向こうに回しての
生徒会選挙!
ありやあ燃えたぜ
懐かしい!

阿久根先輩との柔道対決!
喜界島との水泳対決!
敵だったあいつらが
今じゃ一番頼れる仲間だ!

風紀委員会との抗争!
時計台地下の視察!
忘れようもないほど
大変だった!!

いろいろ
あったけど

いま
今となつては
全部
いい思い出だ



なに
何を言つておるのだ
善吉…

やめろ

言うな



そんな
いま
今わの際
みたいなこと

言うなあつ!!



好きだぜ

めだか
ちゃん





「……っ!!」

「嘘……」

「見えないはず
なのに……」

見えなくても
戦えるよう一週間—
名瀬先輩と
がんばったんだ

お前は俺の
努力まで!
なかったことには
できねえよ!



とはいえ身体は
まだお前に
ビビってる

心底お前に
フルってる

だがそれなら
それで戦いようは
あるぜ

マイナス無効化
システムその13!

からだの震えが
止まらないなら！

もつと激しく
震えるまでだ！

「!?」

「震脚っ…!?」





『と』

『いうことは
当然——』



「気持ち悪っ——」

「お」

「うおっ」



しかし！

ハブの毒は
出血毒……

さすがの球磨川も
ひとたまりも
ねーだろ——



「そう
しかし！」

「僕には
「大嘘憑き」という
マイナス
欠点がある！」





その
けってん
欠点なら

おれ
俺がカバー
しよう。



ともだち
友達にはなれないけど
いっしょ
せめて一緒に
死んでやるよ

いっしょ
一緒に地獄を
みに行こうぜ
くまがわせんぱい
球磨川先輩！

「……………」


いや
嫌だよ
死にたくない

あやま
謝るから離して
ぼく
僕が悪かった



ははっ

お前の口から
そんな言葉を
聞くとはな



とてもじゃ
ねえが

信じられ
ねえよ。

喜界島れぼーと
あぶのーまるこれくしょん

いとしまぐんき
ですうおっち

どうそつたいふ

ふらすしゅくすの
リーだーだよ
なかまおもいのいし
ひとだけどころなり
おしつけがましかつた
らしいんだ

そののうりよくは
なぞにつつまれていて
たれもしらない
ほんにんも
よくわかってない
わかれうともしてない



喜界島^{きかいじま}れぼーと
あぶのーまるこれくしょん⑧

ひゃくちょうはまや
「らう」

せんとうたいふ

ふらすしっくすの
したともにみとめる
なんばーつー
じぶんで
みとめちゃってるんだ

ゆみやをつかうみたい
だけどなぜか
けんきゅうしょでは
ちゅうしゃしょうを
かんりしているよ。
くるまずき？



喜 かいじま

喜界島れぽーと
あぶのーまるこれくしょん⑨

ゆのまえおとめ
「ふりーわーと」

えきたいたいふ

えきたいたいふって
そんなたいふ
ほかにいないよ

いつもがむを
かんでるけど
からだとまざっちゃわ
ないのかな？

てゆーか
おっばいがたいへん



き かいしま

喜界島れぼーと

あぶのーまるこれくしょん⑩

ちくせんゆとり

とりつくおあとしーとめんと

びようたいふ

しゅうにかみのけを

のばせるんだ

しかものばすだけじゃなく

てあしのようにしゅうに

うごかせるっていうんだから

ふっとびだね

しつはしふんのかみのけ

だけじゃなくず

まわりのひとのかみのけも

のばせるよ

おくのてだからめったに

つかわないけどね



きかいしま
喜界島れぽーと
あぶのーまるこれくしょん①

つるみさきやまみ
すたーますたー

きかいたい

さいぼーく。
からたのはんぶんか
きかいでできているよ。
てっきゅうをとかしたのも
のうりよくじゃなくてきのう。
だからかいぞうにんげんの
こがさんを
らいばるししていたんだ
とうのこがさんは
ふつうに
めいわくがっていたよ。



きかいしま
喜界島れぼーと
あぶのーまるこれくしょん⑫

かみみねしょこ
「でんたるしゅーず」

ぶんせきたいい

たべたものをりかいし
ぶんせきするというのか
かのじょのあぶのーまる。
たべものじゃなくても
ぶんせきする。
うらをかえせばなんでも
たべるよ。

かかえているほんには
ぶんせきけっかを
かいているんだ。
きょたいなめもちょうと
いっていいね。



めだかボックス



第1回

キャラクター人気投票

結果大発表!!!



第3位
宗像形
323票



第2位
人吉善吉
554票



第5位
不知火半袖
307票



第4位
名瀬天歌 (黒神くじら)
318票



第7位
喜界島もがな
296票



第6位
黒神真黒
297票



第1位
黒神めだか
832票

だい 第32位	い たね が しま 種子島	10 票
	つる み なき やま み 鶴御崎山海	10 票
だい 第34位	い や く しま 屋久島	8 票
だい 第35位	い し ら め い はかま 不知火袴	7 票
	え ちかえ むか え 江迎怒江	7 票
	うし ぶか がら はる 牛深柄春	7 票
	く ま がわ みそぎ 球磨川雪	7 票
だい 第39位	い あき づせ 秋月	5 票
	あ そ たん ざく 阿蘇短冊	5 票
だい 第41位	い よし の が り 吉野ヶ里	4 票
	つし ま う のう 対馬右脳	4 票
	も じ 門司	4 票
	ひと よし ぜん せき 幼少期 人吉善吉(幼少期)	4 票
だい 第45位	い くろ かみ 黒神めだか(改)	3 票
	つし ま さ のう 対馬左脳	3 票
	ボルゾイ	3 票
	オーケストラ部の部長	3 票
	くろかみ かいしん 黒神めだか(改神モード)	3 票
	あま み おお しま 奄美大島	3 票
だい 第51位	い ロシアンウルフハウンド	2 票
	ゆう ばる 夕原	2 票
	もっ せん 木金コンビ	2 票
	もっせん もくばい る 木金コンビの木製バットの方	2 票

だい 第 8 位	い うん ぜん あよう り 雲仙冥利	271 票
だい 第 9 位	い みやにのじょう おう ど 都城王土	205 票
だい 第10位	い く ま がわ みそぎ 球磨川禊	185 票
だい 第11位	い なべ しま おこ み 鍋島猫美	184 票
だい 第12位	い こ が 古賀いたみ	165 票
だい 第13位	い ひら ど 平戸ロイヤル	140 票
だい 第14位	い めく はし み ぞう 行橋未造	139 票
だい 第15位	い うん ぜん あよう ぎ 雲仙冥加	115 票
だい 第16位	い ゆの まえ おと め 湯前音眼	110 票
だい 第17位	い あり あけ 有明	90 票
だい 第18位	い あく ね こう き 阿久根高貴	87 票
だい 第19位	い いさ はや 諫早	81 票
だい 第20位	い にし あ い しん 西尾維新	46 票
だい 第21位	い いと しま ぐん せ 糸島軍規	31 票
だい 第22位	い あか つき 暁月あきら	29 票
だい 第23位	い がみ みね しょ こ 上峰書子	19 票
だい 第24位	い よぶ こ 呼子	17 票
だい 第25位	い ひょう び 日向	15 票
	あに がせ ばり がね 鬼瀬針音	15 票
だい 第27位	い ちく ぜん ゆ とり 筑前優鳥	12 票
	やつ しろ 八代	12 票
だい 第29位	い ひゃくちよう は ま や 百町破魔矢	11 票
	たか ち ほ し ぐさ 高千穂仕種	11 票
	ひと よし ひとみ 人吉瞳	11 票

その他の
少数票

★木金コンビ金属バットの方★雲仙冥利を愛でる会★直方賢理
★城南★鹿屋★ヤンキー剣道部員のニット帽をかぶってた人
★八代が告白した人★幼少期の球磨川のボロボロの人形
★不知火の持っているアメ★風紀委員会特服「白虎」 etc.

※WJ・2010年45号に掲載されたものを再構成しました。

次巻、過負荷の侵攻!!



その時――



あたしは
断然

血の海派。



あたし達は
酷い目に
遭ってきた

だから
酷いことを
しても
いいんだ!!

極限の戦況へ



参戦を表明したのは!?



めだかボックス 第9巻

2011年

3月発売予定!!

■ジャンプ・コミックス

めだかボックス

8「好きだぜ」

2010年12月31日 第1刷発行

著 者 西 尾 維 新

©NISIOISIN 2010

暁 月 あ き ら

©Akira Akatsuki 2010

編 集 ホ ー ム 社

東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号

〒101-8050

電話 東京 03(5211)2651

発行人 鳥 嶋 和 彦

発行所 株式会社 集 英 社

東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号

〒101-8050

03(3230)6233(編集部)

電話 東京 03(3230)6191(販売部)

03(3230)6076(読者係)

Printed in Japan

製版所 株式会社 コスモグラフィック

印刷所 凸版印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁
(本のページ順序の間違いや抜け落ち)の場合は
お取り替え致します。購入された書店名を明記
して、集英社読者係宛にお送り下さい。送料は集
英社負担でお取り替え致します。但し、古書店で
購入したものについてはお取り替え出来ません。
本書の一部または全部を無断で複写、複製する
ことは、法律で認められた場合を除き、著作権の
侵害となります。

ISBN978-4-08-870166-0 C9979